



毎日新聞社 河出卓郎氏による  
セネガル職業訓練事後評価  
報告書

平成11年11月

国際協力事業団  
評価監理室

評 監
J R
99 - 08

## 序 文

日本は、政府開発援助（ODA）により、開発途上国の国造りを支援しています。日本は援助総額が世界第1位のトップドナーであり、日本の継続的な取り組みおよび開発途上国自身の自助努力を支援する姿勢は、被援助国の開発に大きく貢献し、高く評価されています。しかし、ODAは、政治的・経済的に不安定なうえに文化や社会環境も日本とは異なる開発途上国で行われること、さらにはカウンターパートと呼ばれる相手国の関係者と協議しつつ協力を進める必要があることなどから、必ずしも当初の計画どおりに事業が進まないことがあります。

近年の厳しい政府の財政事情によりODA予算の見直しが行われていることを背景として、ODAが開発途上国の国造り・人造りに役立っているのか等の観点から、事業評価の充実が求められています。ODAの実施機関である国際協力事業団（JICA）としては、所期の目標を達成できた案件についてはその成功要因を分析し、また、目標を達成するのが困難であった案件についてもその阻害要因を分析し、その結果を新規案件を実施する際の教訓としてフィードバックしています。

ODA事業は、協力の現場が主として海外であり、日本国民が容易に目で見たり実感できないという事情があるため、事業の成果を広く一般に理解してもらうことも重要な課題となっています。このため、JICAでは近年、外部の有識者による「第三者評価」を充実させ、国民の目を代表して客観的な評価をしていただいております。

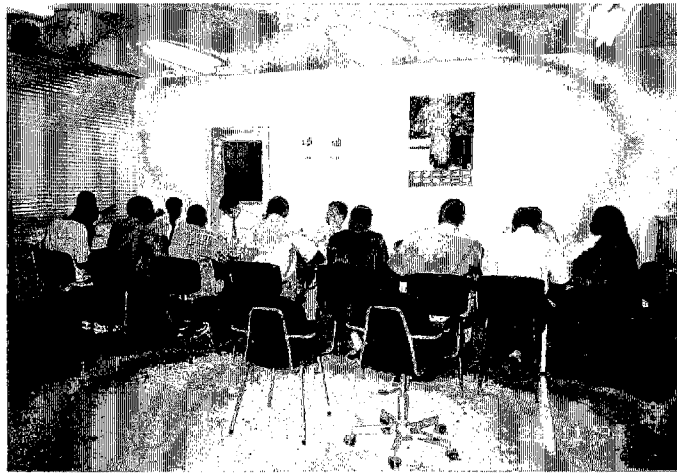
本報告書は、平成10年11月に毎日新聞社の河出卓郎氏を団長として派遣された第三者評価調査団（セネガル職業訓練）の調査結果を取りまとめたものです。本報告書に記載された内容は、評価者の意見を尊重した形で取りまとめられたものであり、必ずしもJICAの見解を代表するものではありませんが、本報告書において指摘されている教訓や提言については、今後類似の案件を実施する際に大いに役立てていく所存です。

最後に、本評価調査の実施にあたっては、日本・セネガル両国の関係者の方々に多大なご協力をいただきました。ここに、ご協力いただきました関係各位に対して、心より感謝の意を表するとともに、今後のご支援をお願いする次第です。

平成11年11月

国際協力事業団  
理事 伊集院明夫

▶  
卒業生への  
インタビュー全景



▶  
卒業生へのインタビュー1



▶  
卒業生へのインタビュー2



▶  
インタビュー後  
卒業生との懇談会



▶  
所長、部長、課長への  
インタビュー



▶  
在校生のヒアリング1



▶  
在校生のヒアリング2



# 目 次

序文  
写真

調査結果の要約 .....	1
第1章 評価調査の概要 .....	7
1 - 1 評価調査の経緯と目的 .....	7
1 - 2 評価対象案件 .....	7
1 - 3 評価調査団構成 .....	7
1 - 4 現地調査実施期間 .....	8
1 - 5 調査方法 .....	8
1 - 6 主要面談者 .....	9
第2章 セネガルの職業訓練事情 .....	10
2 - 1 セネガルの公的教育システム .....	10
2 - 2 セネガルの職業訓練の概観 .....	13
第3章 評価調査結果 .....	20
3 - 1 セネガル職業訓練センターの背景・経緯 .....	20
3 - 2 セネガル職業訓練センターの現況 .....	23
3 - 3 指導員への技術移転 .....	35
3 - 4 機材および施設の活用状況 .....	37
3 - 5 アンケート調査およびインタビュー結果 .....	41
第4章 団長所感 .....	44
4 - 1 達成度 .....	44
4 - 2 成功の理由 .....	44
4 - 3 今後の課題 .....	45
4 - 4 おわりに .....	46

第5章 教訓・提言 .....	48
5 - 1 きめ細かいアフターケア .....	48
5 - 2 日本側支援団体との関係強化 .....	48
5 - 3 組織の自立発展に向けた努力 .....	48
5 - 4 地域協力への発展 .....	48
5 - 5 複合協力 .....	49

## 資料

1 訓練カリキュラム .....	53
2 就職先リスト .....	58
3 在職者セミナー実施実績 .....	61
4 夜間コースカリキュラム .....	65
5 周辺国からの入学者数 .....	66
6 指導員リスト .....	67
7 質問票 .....	68

## 調査結果の要約

本評価調査では、現地調査に先立ち、評価調査のために作成したプロジェクト・デザイン・マトリックス（PDM）に基づきアンケートを作成し、これを事前にセネガル側に送付して記入を依頼した。現地では、同アンケートを回収するとともに、関係者へのインタビューを実施した。

以下に、本調査結果を「目標達成度」「効果」「計画の妥当性」「自立発展性」の4つの基準によりまとめる。なお、JICAでは通常、「効率性」の観点からも評価を行っているが、「効率性」については、終了時評価調査などにおいてすでに詳細に調査されていることから、重複を避けるため、本評価調査では割愛することとした。

### 1. 目標達成度

本プロジェクトの目標は、日本・セネガル職業訓練センター（CFPT）を設立し、カウンターパートへの技術移転を行うことを通じて、工業設備（電子、電気、機械）に関する基礎的知識と技能を与えるための技術職業訓練を行うことにより、セネガルにおける中堅技能者の育成を図ることであった。この目標は、10年間にわたる日本側の協力を通じて、以下に示すように十分達成されたといえる。

#### (1) 訓練コースの拡充

1984年プロジェクト方式技術協力がスタートしたときの養成訓練の計画定員は3学科、5コース、150名（10名×5コース×3学年）であった。本調査時点での在校生は第1学年58名、第2学年55名、第3学年43名、合計156名となっており、最近5年間の在籍数は、各年160名前後で推移している。

以上は昼間の養成訓練についてであるが、CFPTは1993年、独自に夜間の養成訓練コースを開設し、現時点におけるその在籍数は272名に達している。なお、プロジェクト方式技術協力による日本人専門家の派遣は1991年3月にすでに終了しており、CFPTの指導員層は、その身分と処遇についての未解決の問題を抱えながら、倍増した業務量をこなしている。

さらに、CFPTは企業側の要請に応える形で、1989年から在職者訓練も開始しており、入手資料による1998年の実績は、16コース、121名、延べ1257時間となっている。

#### (2) センター卒業生の動向

センターの卒業生は1987年に3年間の養成訓練を修了した第1期生29名から1998年までに合計542名にのぼっている。これら卒業生のうち、技能工免状（BT）試験志願者は482名、合格者は348名で合格率は71%である。また、同期間における就職希望者299名の就職率は86%、

257名となっているが、卒業の1年後にはほとんど全員が就職しているといわれている。これらBT合格率および就職率のいずれもが、他の施設と比較して著しく高率である。

### (3) 卒業生の活躍とCFPTの社会的評価

就職している卒業生はセネガルの産業の中堅を担う技術者、技能者として活躍し、雇用主によって高く評価されている。また、卒業生自身もセンターで受けた訓練内容について満足度が高い。

このため、工科系学生の第1希望はCFPTといっても過言ではない。特に、BT資格のレベルでは他の工業高校や職業訓練施設の追随を許さず、他校からはCFPTの全科がモデルとしてみられている。これは各訓練分野の技術移転と同時にマネジメントについても技術移転され、また供与した日本の機材が優秀であったことにもよるものと考えられる。

### (4) 職業訓練指導員への技術移転

CFPTにおける指導員の配置状況は、計画当初の20名から、現在では30名に増強されている。そのうち16名が日本人専門家の旧カウンターパートである。1984年のプロジェクト方式技術協力開始以来1991年までの7年間に、日本からは、3次にわたり長短あわせて43名の専門家が派遣された。CFPTの今日の業績は、これら専門家からカウンターパートへの技術移転、さらにはカウンターパートからそれ以外の指導員への二次的な技術移転が、成功裏に行われていることを明瞭に示唆している。CFPT指導員のなかにはまだ必要な資格に達せず国家公務員身分を取得していない者が11名いるが、その地位安定のため資格取得を促進することが望まれる。

### (5) 機材、施設の維持管理

機械、設備の維持管理については、全般的には満足すべき状態にあるが、電気、電子部品のなかには13年を経過し、使用不能のものもある。現地で調達できない特殊な部品については日本側の支援を求めている。

## 2. 効果

本プロジェクトは、セネガルの経済社会のみならずその周辺国にも大きなインパクトを与えている。

### (1) 国内経済社会への効果

セネガルにおいては、1980～1990年代を通じ、産業構造に大きな変化の跡を検証すること



は困難である。長期化する一次産品の不況、国際収支の不均衡、肥大化するインフォーマルセクターの存在が事態をいっそう複雑にしている。労働市場に目を移すと、総人口940万人（1997年推定、C.I.A.レポート。以下同じ）、生産年齢人口460万人で、このうち雇用労働者数は17万5000人、うち60%がパブリックセクター、40%がプライベートセクターとなっている。この雇用労働者数は、1980年代の半ばの23万人をピークとして減少傾向がみられる。

このきわめて限定的な雇用労働者市場に対し、この11年間、CFPTの存在が可能にした良質な人材の供給は、質・量の両面で、セネガル国内の経済社会にポジティブなインパクトを与えているものと判断される。

CFPT卒業生は各企業の主としてメンテナンス部門で活躍しており、装置産業の最新機械の監視なども担当している。また、中小企業ではマネージャーのポストに就いている者もある。雇用主からも卒業生の勤務態度、基礎学力および技能について、正当な評価を得ており、かつ、相応した処遇を受けていることが判明した。在職者訓練もこうした企業の要望に応じて現場のニーズに即した訓練が行われ、CFPTの活動は産業界に高く評価されている。

また、CFPTの成功によって、セネガル政府は、さらに短大レベルの高度の技能者・技術者を養成する部門（情報技術科、自動制御技術科）を開設するべく、準備を進めている。

## (2) 周辺国への効果

今回の調査結果について特筆すべきは、本プロジェクトが、国内の関係者はもとより、アフリカ仏語圏（21カ国）においても高い評価を享受するに至っていることである。国民教育省職業訓練局長によれば、CFPTは、同圏内のベスト3センターにあげられている由である。他の2つは、モロッコのラバトセンター（印刷訓練）とガボンのリーブルビルセンター（コンピューター訓練）である。同局長の発言は、1990年に開始された周辺国からの養成訓練受入が、現時点までに、17カ国、138名（累計）に達していることにより裏づけられる。ただし、外国人受入枠は、自国民優先の立場から、15%程度（20～22名）にコントロールされている。

## 3. 計画の妥当性

本計画が策定された1984年当時の上位目標は、中堅技能者を育成することにより、軽工業を中心とした二次産業を振興し、農業を中心としたモノカルチャー経済からの脱皮を図ることであった。14年経過した今日においても、セネガルにおける基本的な政策目標は変わっておらず、プロジェクトの成果をみると、本計画はきわめて妥当なものであったと評価し得る。

### (1) 政策優先度

セネガルには巨大なインフォーマルセクターが存在する。一説には、GNPの60%、雇用の

ほとんどがインフォーマルセクターによっているという。この存在が政府の統治能力、資源の動員力に大きな制約を課している。こうした状況下において、セネガルの国家予算は、常に国民教育省に最優先の配分（2～3割）を与え、職業訓練にはその1割程度が割り当てられている。人的資源の開発は、セネガルの国家戦略であり、その方針は現行の第9次経済社会開発計画（1996～2001年）および国家公共投資計画（1997～1999年）にも受け継がれている。

1995年の行政改革により、職業訓練局は、労働職業訓練省から国民教育省に移管されたが、これには一般教育と職業教育との連携を図り、経済社会開発に役立つ実践的人材を育成しようとの狙いがあり、政令の整備（資格認定制度など）と組織改正〔国家協力委員会（CNC）の設置など〕が着実に進められている。

## (2) 学科編成

本プロジェクトはプロジェクト目標を電子・電気・機械の3分野における中堅技能者の養成においているが、セネガルでは、1990年代を通じ、電子・情報産業関係の起業が目覚ましく、1990年代初頭の10数社から、現在では80数社に達しているという。CFPTへの応募者もこの傾向を反映して、電子、電気コースへ希望が集中している。電子・情報関連産業の育成が在来型の軽工業に代わってセネガルにおける工業化の呼び水の存在となり得る可能性を指摘できる。つまり、セネガルの場合は、インフォーマルセクターが追従し得ない先端部門への特化が有利な側面を有しているからである。その意味で、本プロジェクトが当初から、伝統的職種ではなく、電子、電気の両科を訓練コースの中心に据えたことは妥当な選択であったというべきであろう。

若干の問題点は、自動車整備コースである。その就職率は、5コース中で最も低く、しかも低下の傾向にあることである。これは、自動車修理業が、町工場レベル、または、インフォーマルセクターに属し、CFPT卒業者のBT資格とミスマッチを起こしている可能性が考えられる。セネガルのモータリゼーションの推移如何によっては、本コースに修正の必要が生ずるものとみられる。機械修理コースについては、CFPT自体の判断により、電子制御技術に重点を移すことで修正が図られている。

## 4. 自立発展性

CFPTは日本の協力期間終了後も、セネガル側スタッフの手により財政上の困難を克服しつつ、意欲的にその活動を持続発展させているといえる。

### (1) 運営管理

CFPTは、1984年に養成訓練を開始して以来、1989年在職者訓練開始、1990年外国人養成訓

練受入開始、1993年養成訓練夜間コース開設と、比較的急ピッチに事業内容を拡大してきている。これは、日本人専門家からカウンターパートへの一次の技術移転、さらに、カウンターパートから同僚指導員への二次的技術移転が成功裏に行われ、優秀な指導員グループの創出に成功したことによる。それと同時に、セネガル政府の人材開発戦略が明確で、かつ長期にわたり不動であったこと、それを受けとめたCFPT経営陣の卓越した指導力、管理能力に帰すべき面が大である。

組織面では教務部長のポスト新設、指導員および総務部門の増員で強化され、センター長によれば、チームワーク、チャレンジ精神など日本的経営から学んだことを生かし、職員全員が意欲的に取り組んでいるとのことである。

指導員は、企業を訪問するなどによって常に訓練ニーズの把握に努め、養成訓練、在職者訓練のカリキュラムの改善を図っている。

## (2) 財政基盤

CFPT運営上の最大の難問は、財政問題である。セネガル政府自体、財政難が恒常化しており、CFPTは、優先的に予算配分を受けているといいながら、運営予算の20%程度が示達されているにすぎない。しかしながら在職者訓練、養成訓練夜間コースおよび外国人養成訓練を有料とし、その受講料収入を指導員の人件費に充てるほか、食堂、バスケットコートなど施設の改善も図っている。

また、国民教育省は情報工学、自動制御などの分野においては、BT資格のレベルでは産業界の要望に対応できないとの判断により、上級技術工免状（BTS）2年コースの創設を計画するに至り、日本政府に技術協力を要請するとともに、1998年、CFPT敷地内に、そのための建家（約320㎡）の建設を自費で開始している。

## 5 . 総括

1984年に創立されたCFPTは、1998年に14年目を迎えた。この間、日本が協力した期間は、延長、フォローアップ、アフターケアも含めると10年間にわたり、建物、機材、専門家派遣、研修員受入を含み、相当の資源が投入された。これは、本プロジェクトが日本としてフランス語圏アフリカ諸国で初めて実施した技術協力であって、その成功に両国関係者の高い期待がかけられたためである。

CFPTの現状は、その期待に応え、セネガル国内はもとより、西アフリカ諸国にまで工業分野の人材育成に関して注目すべき実績を残し、高い評価を確立するに至っている。

CFPTは現在も財政問題、機材の更新、指導員の資格などいくつかの課題を抱えているが、セネガル関係当局およびCFPT経営陣は、これらの問題解決に意欲的に取り組み、さらなる発展を旨

している。日本としても、西アフリカの諸国への人材養成協力のモデルとしての意義にもかんがみ、時宜にかなった支援をしていくべきであろう。

## 第 1 章 評価調査の概要

### 1 - 1 評価調査の経緯と目的

日本は、アフリカの諸問題解決に貢献することは世界の平和と安定にグローバルな責任を有する日本の責務であるとの観点から、アフリカ諸国の経済的困難の克服に向けての努力を支援するため、経済協力の拡大、人的交流と相互理解の増進などに努めてきた。折しも、1998年10月、第2回アフリカ開発会議（TICAD）が東京で開催され、アフリカ開発に向けたドナー側およびアフリカ諸国側双方のいっそうの取り組みが再確認されたところである。

このような背景のもと、今回、アフリカ地域における日本の援助の重点国のひとつであり、DAC新開発戦略の重点実施国であるセネガルにおいて、人造り協力の代表的な事例として日本・セネガル職業訓練センタープロジェクトを評価し、サブサハラ諸国の軽工業振興を中心とした経済発展の基盤となる中堅技術者育成への貢献、協力効果の発現要因および発現阻害要因を分析するとともに、今後の同地域における類似案件、特に持続発展性を有する人造り協力の計画策定・実施における教訓・提言を外部有識者の視点から導き出すことを目的として、国内の公的事業の成果および効果を報道関係者として検証してきた毎日新聞社の河出卓郎氏に総括を依頼し、本第三者評価調査を実施することとした。

### 1 - 2 評価対象案件

(1) 職業訓練センター建設計画（1982、1983年度、無償資金協力）

(2) 日本・セネガル職業訓練センター（1984年2月～1993年3月、プロジェクト方式技術協力）

### 1 - 3 評価調査団構成

団長・総括	河出 卓郎	毎日新聞社千葉支局次長
計画評価	外川 徹	国際協力事業団評価監理室室長代理
職業訓練	梅本 清	(財)海外職業訓練協会国際交流部長

1 - 4 現地調査実施期間（詳細日程は表 1 - 1 を参照）

1998年11月17日～11月27日

表 1 - 1 現地調査日程

月 日(曜日)	行 程
11月17日(火)	東京 パリ
18日(水)	パリ マドリッド経由 ダカール
19日(木)	JICAセネガル事務所事務所訪問、調査日程打合せ、アンケートの回収 在セネガル日本大使館、国民教育省、日本・セネガル職業訓練センター(CFPT) 表敬
20日(金)	CFPTにおいて、施設見学、経営陣、指導員、訓練生、卒業生などへのインタ ビュー、資料収集
21日(土)	
22日(日)	資料整理
23日(月)	(河出団長、外川団員) 日本の他の無償資金協力案件(小学校建設、地方給水)を参考視察 (梅本団員) アンケート結果取りまとめ
24日(火)	卒業生就職先〔Colgate Palmolive(洗剤、石鹼などの製造)、SONACOS(食用 油、家畜飼料などの製造)、SONATEL(電気通信)〕において、現場責任者、 卒業生へのインタビュー
25日(水)	在セネガル日本大使館、JICAセネガル事務所、国民教育省、CFPT報告 ダカール
26日(木)	パリ、JICAフランス事務所表敬、パリ
27日(金)	東京

1 - 5 調査方法

本評価調査では、以下の手順により調査を実施した。

(1) 事前の国内作業

評価対象プロジェクトに関する各種既存資料の収集・分析を行うとともに、セネガル側関係者(指導員、訓練生、卒業生、就職先企業など)に対するアンケートの作成・配布を行った。

(2) 現地調査

職業訓練センターを訪問し、現在までの同センターの活動・運営実績を調査するとともに、事前に配布したアンケートの回収、さらにセネガル側関係者へのインタビュー調査を実施した。

(3) 報告書作成

事前の国内作業および現地調査を通じ入手した資料・データを整理・分析し、職業訓練セ

ンターに対するJICAの協力の貢献度、効果発現要因および効果発現阻害要因を明らかにした。加えて、これらの評価結果から、将来の類似案件の形成・実施に資する教訓・提言を導き出した。

#### 1 - 6 主要面談者

##### (1) 在セネガル日本大使館

特命全権大使	河村 悦孝
公使	福島 清介
一等書記官	二木 孝

##### (2) JICAセネガル事務所

所長	塚田 恒男
次長	濱川 格

##### (3) JICAフランス事務所

所長	濱崎 文彦
----	-------

##### (4) 国民教育省

職業訓練局長	Mamadou SAGNANE
--------	-----------------

##### (5) CFPT

所長	Ousseynou GUEYE
教育部長	Bara KIMERA
教務部長	Massaër KEBE
経理課長	Cheikh A.Tidiane SOW

##### (6) Colgate Palmolive (洗剤、石鹼などの製造会社)

プロセスエンジニア	Dieng ABDOULAYE
-----------	-----------------

##### (7) SONATEL (電信電話会社)

メンテナンスセンター長	Mouhamadou Moustapha NDAO
-------------	---------------------------

##### (8) SONACOS (国立油脂公社)

工場長	Rene NDOUR
-----	------------

## 第2章 セネガルの職業訓練事情

### 2 - 1 セネガルの公的教育システム

セネガルにおける教育制度は、旧宗主国であるフランスの影響を強く受け、その体系は酷似している。基本的には小学校6年、中学校4年、高等学校3年の修学年限であるが、学年の開始は日本と異なり、新学期は10月から開始され翌年7月をもって1学年を終了する。

その全体の体系図を図2 - 1に示す。

教育に関する基本法は、1971年6月3日付法律第71-36により定められている。この法律の第3章第8条では、

第8条 教育は年齢および追求する知識の水準により、次の異なる段階によって行われる。

- 就学前教育
- 初等教育
- 中等教育：第1段階
- 中等教育：第2段階
- 高等教育

となっている。

#### (1) 就学前教育 ( Education pré-scolaire )

この教育は日本における幼稚園教育に相当するもので7歳未満の子供が受ける教育である。この段階での教育においては特段に資格は付与されない。

#### (2) 初等教育 ( Enseignement élémentaire )

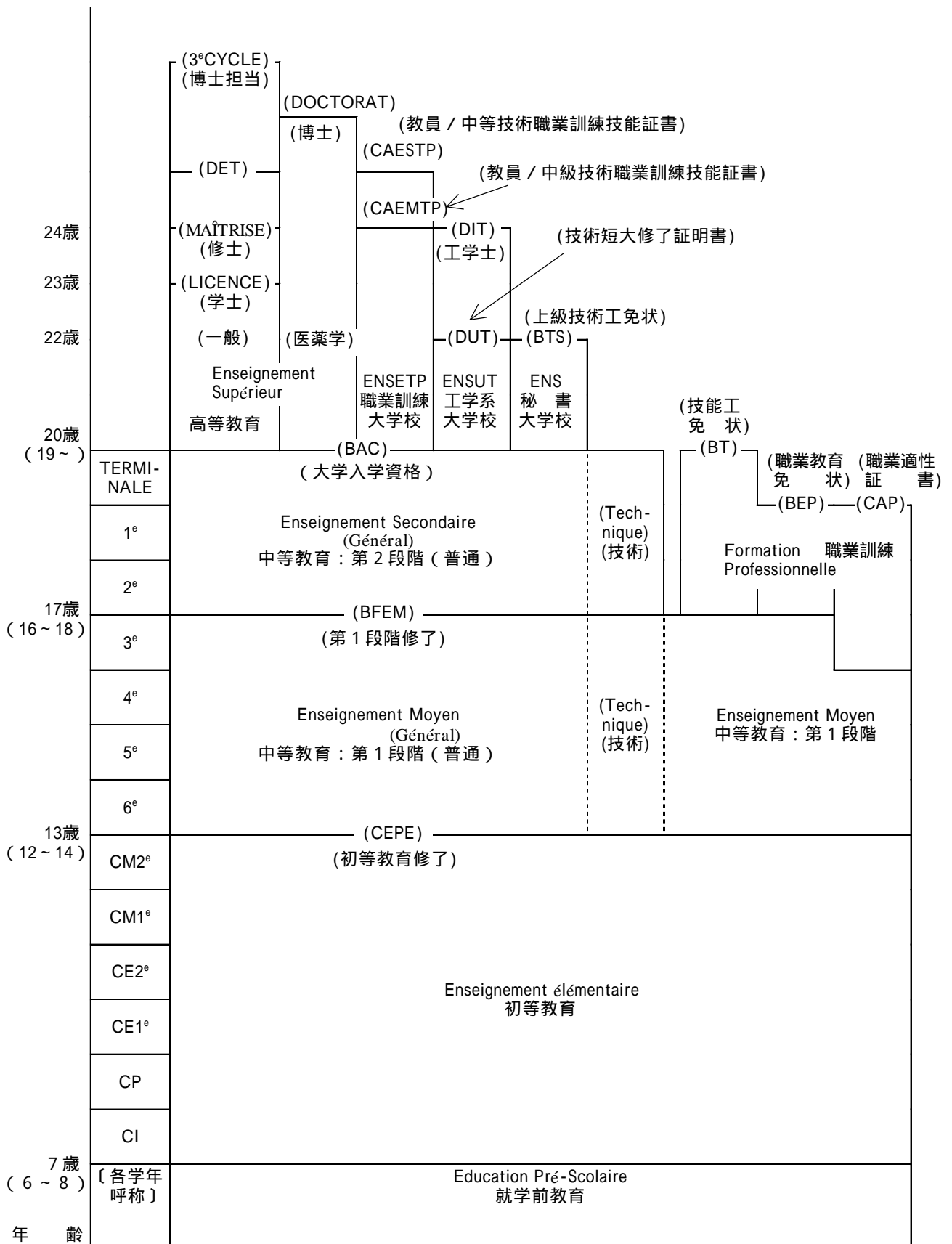
この段階における教育は日本の小学校に相当するもので、入学適齢年齢は7歳である。しかし場合によっては6～8歳でも入学を許可されることがある。修学年限は6年間であるが、このうち初めの4年間は義務教育となっている。なお、CIからCE 2°までの4年間は自動的に進級するが、それ以後は落第があり得る。この落第は2回まで認められている。この教育の修了時にCertificat d'Etudes Primaires et Elémentaires ( CEPE ) の資格試験がある。

#### (3) 中等教育：第1段階 ( Enseignement Moyen )

この教育は日本における中学校に相当する教育であるが、就学年限が4年間とされており、日本のそれよりも1年長い。入学適齢年齢は13歳であるが、12歳から14歳の範囲の者も入学することができる。

入学をするには、前段階の教育修了資格である初等教育修了証 ( CEPE ) を所持しているこ





(注) ( )内は資格証の名称を示す。

図 2 - 1 教育制度一覧

とが条件で、そのうえ入学試験が行われる。4年間のうち1回のみ落第が認められる。

この段階での教育は、普通課程と技術課程がある。卒業時には中等教育第1段階修了者としての資格であるBrevet de Fin d'Etudes Moyennes (BFEM) が付与される。なお、この資格は以前はDiplôme de Fin d'Etudes Moyennes (DFEM) とされていたが、資格要件の変更とともにその名称も変更された。

#### (4) 中等教育：第2段階 (Enseignement Secondaire)

この教育は日本における高等学校に相当するもので、就学年限は3年間である。入学に要する条件としては、前段階での教育修了証であるBFEMを取得していることが必要で、通常前段階と同一の学校の第2段階に進む場合には、学内審査のみで入学が許可される。なお、この期間における落第は1回のみ認められている。

入学適齢年齢は通常17歳であるが、16～20歳までの者であれば就学許可が与えられる。この段階における教育は、前段階と同様に普通課程と技術課程がある。

なお、中等教育の第1段階のみの教育を行う施設をCollège (コレッジ) と呼び、中等教育の第1段階および第2段階の7年間を続けて行う施設、または中等教育の第2段階のみを行う施設をLycée (リセ) と呼んでいる。

この段階の卒業時には大学入学資格であるBAC (Baccalauréat/バカロレア) を得て次の段階に進学することができる。

BACの種類には次のようなものがある。

BAC A : 文学

BAC B : 経済および商業

BAC C : 数学

BAC D : 自然科学

BAC E : 技術数学

BAC F : 工業技術

BAC G : 商業技術

#### (5) 高等教育 (Enseignement Supérieur)

この段階の教育は日本の大学教育および大学院教育に相当する教育段階である。入学に要する資格はBACを所持していることであり、入学試験が行われる。

入学適齢年齢は通常20歳であるが、19歳以上であればBACを所持し入学試験に合格すれば許可される。

就学年限は一般は3年間で学士 (Licence) を得る。さらに1年上の段階で修士 (Maîtrise)

さらに1年上の段階で研究者（DEA/Diplôme d'Etude Approfondie）が、その上3年目、すなわち、通算8年目で博士に相当する3<sup>e</sup> cycleという資格が与えられる。医学部、薬学部においては就学年限6年目を修了した段階で得られる博士（Doctorat）の資格がある。

なお工学・技術系には別のコースも用意されている。

セネガルの大学には西アフリカきっての名門校であるダカール大学（総合大学）がある。ダカール大学は首都ダカールに位置し、学部として次の4つが設置されている。

- 1) 法律・経済学部
- 2) 医学・薬学部
- 3) 理学部
- 4) 文学・人文科学部

また、このダカール大学の管理下に別組織として、

- 5) ダカール工科大学（ENSUT）
- 6) 教員養成校（ENS）
- 7) ジャーナリスト養成校（CESTI）
- 8) 獣医養成校（EIESMV）
- 9) 司書、記録保管人、文献専門家養成校（EBAD）

がある。

このうちダカール工科大学（ENSUT）には2年コースと4年コースがあり、2年コースの卒業時には技術短大修士証明書/Diplôme d'Universitaire de Technologie (DUT)が、また4年コース卒業時には工学士免状/Diplôme d'Ingénieur de Technologie (DIT)が付与される。

セネガルにおける教育課程で取得された各種の資格は、近隣の旧フランス植民地において通用することはもちろん、旧宗主国フランスにおいても同等の資格として取り扱われるために、セネガルの学校において取得した資格は、次段階の教育をフランス国内で受ける場合、そのまま通用する。

これらの資格は単に卒業後次段階へ行くために有効であるばかりでなく、各段階修了後、就職をする場合においても、労働条件決定のための重要な要因となっている。

## 2 - 2 セネガルの職業訓練の概観

セネガルにおける職業訓練制度については、法律的には教育に関する基本法である法律第71-36（1971年6月3日付）に規定されている。

その法律の第2章第7条に基本的な考えが記述されており、

第7条 国民教育を受ける個人ならびに国民教育を推進することを目的として国民教育を次の三原則とする。

となっている。その第1号では、

第1号 学校教育機構および大学機構の枠内において、学齢および大学教育年齢の若年者に与える教育：

ある水準までの理論知識、実務知識または職業適応能力を習得させることを目的とした普通科教育、技術教育あるいは職業訓練

と位置づけており、また第2号では、

第2号 多かれ少なかれ、長期間の教育課程を修了してすでに職業活動に携わっている若年層および成年者に与える教育：

職業適応能力を高め、文化社会を発展させるために生産能力を増大させることを目的とする知識の高揚を旨とする教育

と定められている。

そしてこれらを受けて、第3章第8条に規定された教育の各段階における職業訓練について、次のとおり記述されている。

第11号 中等教育：第1段階は中等教育普通課程、中等教育技術課程ならびに中等教育実務課程から成り立つ。中等教育は初等教育に引き続いて行われ、中等教育：第2段階の普通課程、技術課程または中等教育職業課程に備えるものであり、また職業生活に備えるものである。

さらに次の条文では、次の段階の教育課程である中等教育：第2段階について規定しており、

第12条 中等教育：第2段階の使命は、ひとつには公私経済、行政管理分野における中間的な水準の職員を養成することであり、もうひとつは、高等教育に備えるものである。

中等教育：第2段階の教育は、普通課程、技術課程および職業訓練から成る。

と定めている。

なお、職業訓練分野に関しては、その大部分を国民教育省が所掌しているが、特殊な分野については、他の省庁の所管になっているものがある。

職業訓練修了後に試験を受けて合格した後に得られる主な資格としては次のようなものがあり、それぞれの入学要件、入学年齢、訓練期間などが異なる。

- 1) Certificat d'Apptitude à l'Enseignement Secondaire Technique et Professionnel (CAESTP)  
教員/中等技術職業訓練技能証書
- 2) Certificat d'Apptitude à l'Enseignement Moyen Technique et Professionnel (CAEMTP)  
教員/中級技術職業訓練技能証書
- 3) Brevet du Technicien Supérieur (BTS)/上級技術工免状
- 4) Brevet du Technicien (BT)/技能工免状
- 5) Brevet d'Enseignement Professionnel (BEP)/職業教育免状

6) Certificat d'Apptitude Professionnelle (CAP)/職業適性証書

7) Diplôme d'Agent Technique de Développement Rural (DATDR)/地域開発技術員  
などである。

セネガルにおける主要な職業訓練施設としては次のようなものがある。

(1) Ecole Normale Supérieure d'Enseignement Technique et Professionnel (ENSETP) : (注)

職業訓練大学校

資格 中級技術職業訓練技能証書/教員 (CAEMTP)

中等技術職業訓練技能証書/教員 (CAESTP)

入学年齢 、 とも19~23歳

入学要件 、 ともBAC所持者

訓練期間 4年間

5年間

(2) Ecole Nationale de Secrétariat (ENS) :

秘書大学校

資格 職業教育免状 (Brevet d'Enseignement Professionnel/BEP)

上級技術工免状 (Brevet du Technicien Supérieur/BTS)

コース名 、 とも秘書科

入学年齢 16~20歳 制限なし

入学要件 BFEM所持者 BAC所持者

訓練期間 、 とも2年間

(3) Centre de Formation Professionnelle et Technique Sénégal-Japon (CFPT) :

日本セネガル職業訓練センター

資格 技能工免状 (Brevet du Technicien/BT)

コース名 家庭用電子機器修理、自動制御、電気、機械修理、自動車整備

入学年齢 16~21歳

入学要件 BFEM所持者

訓練期間 3年間

---

(注) ENSETPは、ティエスにあった職業訓練校と合併し、ESP(Ecole Supérieure Polytechnique)になった。

(4) Centre d'Enseignement Professionnel (CEP)

職業教育センター

資格 職業教育免状 (BEP)

コース名 電気、自動車整備

入学年齢 16～20歳

入学要件 BFEM所持者

訓練期間 2年間

(5) Institut de Coupe Couture et Mode (ICCM)

裁縫仕立て技術学院

資格 職業教育免状 (BEP)

コース名 裁縫、仕立て

入学年齢 16～20歳

入学要件 3<sup>°</sup>修了者

訓練期間 2年間

(6) Centre National des Cours Professionnels Industriels et Commerciaux Delafosse (CNCPICD)

ドラフォス職業商工業訓練センター

資格 職業適性証書 (Certificat d'Apptitude Professionnelle/CAP)

コース名 電気、自動車整備

入学年齢 制限なし

入学要件 企業在籍者

訓練期間 3年間

(7) Centre de Formation Artisanale (CFA)

手工芸訓練センター

資格 職業適性証書 (CAP)

コース名 工芸

入学年齢 16～18歳

入学要件 4<sup>°</sup>修了者

訓練期間 3年間

(8) Centre National de Qualification Professionnelle (CNQP)

国立職業訓練センター

資格 職業適性証書 (CAP)  
Certificat de fin de Stage (試用見習修了証)

コース名 電気、電子、自動車整備、機械一般、冷凍  
企業の依頼による就業者訓練

入学年齢 16～18歳  
制限なし

入学要件 4<sup>°</sup>修了者  
企業在籍者

訓練期間 3年間  
企業と協議して決定する

(9) Centre Technique de formation Professionnelle (CTFP)

職業訓練技術センター

資格 Attestation de fin de Stage

コース名 キャッシャー・売り子 小売商人

入学年齢 制限なし

入学要件 BFEM所持者 BFEM所持者または2<sup>°</sup>修了者

訓練期間 6カ月

(10) Ecole Nationale d'Horticulture (ENH)

国立園芸大学校

資格	技能工免状 (BT)	職業適性免状 (CAP)
コース名	園芸	園芸
入学年齢	16～20歳	16～18歳
入学要件	BFEM所持者	4 <sup>°</sup> 修了者
訓練期間	、とも3年間	

(11) Ecole d'Agents Techniques d'Elevage et des Industries Animales (EATEIA)

畜産業技術学校

資格 地域開発技術員 (DATDR)

コース名 畜産

入学年齢 16～20歳  
入学要件 BFEM所持者  
訓練期間 3年間

(12) Ecole d'Agents Techniques d'Agriculture (EATA)

農業技術学校  
資格 地域開発技術員 (DATDR)  
コース名 農業  
入学年齢 16～20歳  
入学要件 BFEM所持者  
訓練期間 3年間

(13) Ecole d'Agents Techniques des Eaux et Forêts (EATEF)

治水・森林技術学校  
資格 地域開発技術員 (DATDR)  
コース名 治水、森林開発  
入学年齢 16～20歳  
入学要件 BFEM所持者  
訓練期間 3年間

以上のうち、(11)～(13)の施設で行う畜産・農業・治水・森林開発などの職業訓練において、所定の年限を修了し、資格を取得した者は、国家公務員として働くことを義務づけられている。

なお、上記のうちBT試験の受験資格に関してはBT創設に係る政令(1990年7月24日)90-842号に従い、以下の該当者が資格を持つこととなっている。

BT取得の技術教育または職業訓練施設の訓練生で、BT受験の際に中等教育第1段階修了資格(BFEM)あるいは同等の資格取得後、3年間の教育を受けた者

職業教育免状(BEP)の取得者で、BT受験の際にBEP取得後、2年間の実務経験を有する者

職業適性証書(CAP)の取得者で、BT受験の際にCAP取得後、4年間の実務経験を有する者

以上のように、セネガルにおいて職業訓練分野の教育を受けるには、一般教育のある段階を修了した者またはその途中から職業訓練分野に移る場合の2つの系列がある。



図 2 - 1 (教育制度一覧) からわかるように、すべての教育段階において、その卒業時に資格付与(課程修了)試験があり、それに合格することにより次の段階の教育へ進むことができるほか、そのまま就職をする場合においても、その資格証を持たない限り、その段階までの教育を修了したことにはならない。そしてこの資格証は、その人が就職をする場合にも選考や労働条件(特に給与に関する条件)決定の際の重要な要素となる。

## 第3章 評価調査結果

### 3 - 1 日本・セネガル職業訓練センターの背景・経緯

#### 3 - 1 - 1 協力までの経緯

1979年8月、セネガル政府は、電子工業を興すために必要な中堅技術者を養成することを目的とする「電子工業職業養成センター」設立に関してわが国の協力を要請してきた。わが国外務省・JICAは同年11月、コンタクトミッションを派遣し調査した結果、電子に電気、機械の2部門を追加し、無償資金協力とプロジェクト方式技術協力を組み合わせた協力を実施することが適当であるとの判断を下した。

1981年4月に派遣された事前調査団により、本協力の大筋の合意がなされ、同年6月、無償資金協力にかかる基本設計調査団の派遣を経て、無償資金協力によるセンター施設が建設された。そして、1984年、実施協議調査においてプロジェクト方式技術協力にかかるR/Dが署名され、本協力が本格的にスタートした。

#### 3 - 1 - 2 開始時のプロジェクト概要

##### (1) 名称

日本・セネガル職業訓練センタープロジェクト

##### (2) セネガル側実施機関

技術教育職業訓練庁

##### (3) 目的

日本・セネガル職業訓練センターを設立し、セネガル人訓練生に対し、工業設備に関する基礎的知識と技能を与えるため技術職業訓練を行うこと。

##### (4) プロジェクト・サイト

ダカール市北方15km 面積4.2ha

施設は鉄筋コンクリート2階建、総延べ床面積 4400m<sup>2</sup>

管理棟、教室棟、電子実験棟、電気実習棟、機械・エンジン実習棟等

\* 日本側が無償資金協力により建物および教育訓練機器を整備した。

(5) 訓練内容（表3 - 1 参照）

表3 - 1

分野	訓練コース	訓練期間	訓練生定員
電子	家庭用電子機器修理	3年	10名
電子	自動制御	3年	10名
電気	電気	3年	10名
機械	機械修理	3年	10名
機械	エンジン整備	3年	10名

(6) 入校資格

中等教育修了証所持者、または高等学校修学者（5年または6年次修了者）  
16歳以上21歳以下の者  
センター入所試験合格者

(7) 修了者の資格

上記訓練の各担当部局がBT（技能工免状）試験を行う。

(8) 日本人専門家

日本側は、チーフアドバイザー、調整員および各分野の専門家5名、合計7名の長期専門家ならびに必要に応じて短期専門家を派遣する。

(9) セネガル側カウンターパート

セネガル側は、カウンターパートとして、所長、主任指導員、および5コースの分野について、各コース1名の上級指導員、2名の指導員のほか管理職員を配置する。

(10) 協力期間（プロジェクト方式技術協力）

1984年2月4日～1989年2月3日（5年間）

3 - 1 - 3 協力開始後の経過

カウンターパートの日本研修受入は1982年度より開始され、第1陣の研修員が1984年4月にセネガルに帰国し、同年3月に赴任した日本人長期専門家とともに準備作業を行った後、1984年10月17日、電気コースを除く4コースが40名の訓練生により開講し、同月24日、セネガル大統領の臨席のもとに落成式が挙行された。以後、プロジェクトの実施状況を把握するために、日本から逐次調査団が派遣された。

1988年6月に派遣された合同評価調査団は、本プロジェクトの協力期間を1991年3月31日まで延長する取り決めを行った。

1990年6月、再度合同評価調査団が派遣され、プロジェクトの成果についてセネガル側と合同で評価調査を行った。その結果、一部の訓練科目の技術移転や組織としての自立発展性の面でなおいくつかの問題点が残されていると判断されたため、わが国は延長協力期間終了後、さらに2年間のフォローアップ協力を実施した。

また、1994年11月にはアフターケア調査団が派遣され、その報告に基づき、1995年4月から12月までアフターケア協力が実施された。

### 3 - 1 - 4 協力期間中の主要な問題点

#### (1) センターの法的位置づけ

センターの設立および運営に関するセネガル側の政令が整備されない状態が続き、このことがカウンターパートの身分保障、訓練生に対する資格付与などに影響を与えたが、日本側の申し入れにより、1986年11月、政令が公布された。

#### (2) カウンターパートへの給与未払い、身分保障

セネガル側の厳しい財政事情からカウンターパートである指導員への給与未払いが生じ、退職、職場放棄が発生し、日本人専門家による技術移転に支障が出た。

また、身分も準公務員扱いで、指導に十分な熱意を持ってないという状況も存在した。

#### (3) 訓練生に対する資格付与

センターの法的位置づけがなされなかったこと、技能工免状(BT)規定が未整備であったことから、訓練修了生には正式免状の発給がされない状態が続いた。

#### (4) セネガル側の予算不足

現金支出可能な予算が不足していたため、訓練に必要な資材の購入ができず、訓練計画を変更したり、時には訓練が実施できないという事態が生じた。

### 3 - 1 - 5 近年におけるセンター運営の動向

1995年1月のアフターケア調査団の報告では、以下の点が指摘されている。

1) 指導員は1990年当時より3名多い24名が配置されている。

2) 予算は依然大幅な不足であるが、不足分は在職者訓練、外国人訓練生、夜間訓練からの収入を充当しており、訓練の実施に支障はない。

- 3) 機械修理科を除く4科について、訓練定員を12名に拡大した。
- 4) 西アフリカ諸国からの訓練生が在校生の13%を占めている。
- 5) 1989年12月以来、在職者訓練を自動車整備、電気、電子、視聴覚機器修理の4分野について実施している。
- 6) 1993年より夜間訓練を実施している。

### 3 - 1 - 6 評価のためのプロジェクト・デザイン・マトリックス (PDM)

今回プロジェクトの現状を評価するにあたって、表3 - 2のPDMを作成した。これに基づき、現地で実施したインタビューおよびアンケート調査の結果を以下に取りまとめる。

## 3 - 2 セネガル職業訓練センターの現況

### 3 - 2 - 1 概況

アフターケア協力の期間を含めて10年間にわたる日本の協力のもと、設置・運営されてきた「日本・セネガル職業訓練センター」(CFPT)は、1996年12月以降、全面的にセネガル側の手によって運営されている。同センターは、国民教育省職業訓練局の管轄下にある職業訓練施設のなかでも、技術分野で技能工免状(BT)を取得できる最有力の施設であり、指導員、訓練内容、設備のいずれにおいてもセネガルの最高レベルにある。設立以来541名にのぼる本センターの卒業生は同国産業の中堅技術者として産業界で高く評価され、さまざまな分野で活躍している。このため、入校志願者は年々増加し、本センターは企業からのニーズに応えるため、在職者訓練のコースも開設した。また、西アフリカ諸国からも多数の訓練生を受け入れている。これらは運営予算の確保にも寄与している。

セネガルでは、このプロジェクトの成功を経験とし、現在、短大レベルの卒業資格(BTS)が取得できる高度技能者養成施設の設置を計画している。

### 3 - 2 - 2 運営体制

CFPTは所長以下47名のスタッフにより運営されている。このうち教育部門は教育部長以下35名(内、指導員は30名)、管理部門は経理課長以下11名である(図3 - 1)。

1995年以降、教育部長ポストの新設、指導員1名および管理部門2名の増員など、組織の充実が図られている。また、CFPTでは現在、指導体制強化のため指導員10名の増員を国民教育省に要求中である。



表3-2 セネガル共和国 日本セネガル技術職業訓練センター プロジェクト・デザイン・マトリックス (PDM)

28.10'98

プロジェクトの要約	指 標	指標データ入手手段	外部条件
<p>《上位目標》 中堅技能者を育成することにより、軽工業を中心とした二次産業を振興し、農業を中心とした経済からの脱皮を図る</p> <p>《プロジェクト目標》 技術職業訓練センターが、中堅技能者育成の核として十分に機能する</p>	<p>産業の構造の変化 雇用の満足度 中堅技能者の充足率</p> <p>入校応募倍率① 訓練終了者の就職先でのポストと待遇② 訓練終了者の就職状況 (業種別) (企業規模別) (年度別) ③ ピタへの求人数④ 技能進歩会での成績⑤</p>	<p>政府の統計、関係各省のインタビュー 雇業者へのインタビュー 政府の統計、雇業者へのインタビュー、関係各省のインタビュー CFPTの統計とインタビュー①③④ 訓練終了者へのインタビュー② 雇業者へのインタビュー② 技能進歩会主催イベントへのインタビュー⑤</p>	<p>修了者の雇用に継続する</p> <p>経済状況がこれ以上悪化しない</p>
<p>《成果》 1本訓練センターの施設・設備が準備される 2養成訓練指導員が育成される 3技能工資格取得者が増加する 4職業訓練機関としてセンターが発展する</p>	<p>1-1他国以前施設との比較① (訓練状況 機材整備状況) 1-2予算の適正状況② 1-3管理職員の確保③ 1-4教室の備品・機器の満足度④ 1-5機材活用状況⑤ 1-6供与機材の稼働率⑥ 1-7設備稼働率⑦ 1-8カリキュラムの改善状況⑧</p> <p>3-1訓練生数 (性別・年度別) ① 3-2毎年のBT合格者数② 3-3修了者の訓練への満足度③ 3-4修了者数と就職状況④</p> <p>4-1周辺国家視察回数① 4-2在職者の訓練参加の質、量② 4-3施設改良状況③ 4-4訓練コースの改善④ 4-5施設職員数、予算の推移⑤</p> <p>2-1指導員の能力レベル採用と時期① 2-2C/Pへの対応研修の実況② 2-3育成された卒業生数③ 2-4指導員資格取得状況④</p>	<p>1 職業訓練局へのインタビュー①② 他施設の視察インタビュー① CFPTの統計②③ CFPT所長へのインタビュー①②③④ 各科指導員へのインタビュー⑤⑥⑦⑧ 企業の訓練担当者へのインタビュー⑧</p> <p>2 CFPT所長へのインタビュー①③④ 職業訓練局へのインタビュー①③④ JICAレポート②⑤</p> <p>3 CFPTの統計①②④ 修了者及び在校生へのインタビュー、アンケート③ CFPT所長へのインタビュー①③④⑤ CFPTの統計①②③④⑤ 企業の訓練担当者へのインタビュー②</p> <p>4</p>	<p>産業界がセンターを認知する 人材育成の重点目標が変化しない 関連分野施設との連携が強化される</p>
<p>《活動》 1-1センター設立計画の策定と実施 1-2センター運営計画の作成 1-3センター職員を採用 1-4ターゲット・アクションの設定 1-5訓練目標 訓練科目・コースの設定 1-6 施設の管理運営 1-7訓練用機器のメンテナンスの確保</p> <p>3-1訓練生の募集確保 3-2訓練生を指導する 3-3訓練終了者の資格付与を働きかける 3-4修了者の就職先確保 3-5 卒業生のフォローアップ</p> <p>4-1センターのPR (新聞・ラジオ・パンフ...) 4-2センター施設開放 4-3広報管理ツカへの波及活動 4-4セクター事務職員の研修 4-5在職者訓練の実施 4-6「ガ」による行政への助言</p> <p>2-1指導員候補者の確保 2-2指導員への指導助言 2-3「ス」調査の方法の指導 2-4指導員に対する技術研修 2-5指導員の向上訓練の実施 2-6教材の精査 2-7指導カリキュラムの作成 (次訓練生) 2-8国家技術資格テストとの摺り合わせ</p>	<p>《投入》</p> <p>日本側 無償資金協力 技術協力</p> <p>・1982年度 107億円 ・1983年度 93億円 ・専門家派遣 長期、短期 合計43名 ・研修員受入 カンクバート 40名 ・機材供与 約20億円</p> <p>セネガル側 ・センター建設用地提供 ・インフラ整備 ・外務工事、事務用建築、家具等 ・C/P訓練指導員と管理職員の派遣 ・運営予算確保</p>	<p>技能の社会的評価の向上 資格委員会がセンターのコースを認知する 指導員が定着する</p>	<p>《前提条件》 施設建設が予定どおりなされる 責任体制が確立される 予算が確保される 他の教育訓練機関と競合しない</p>





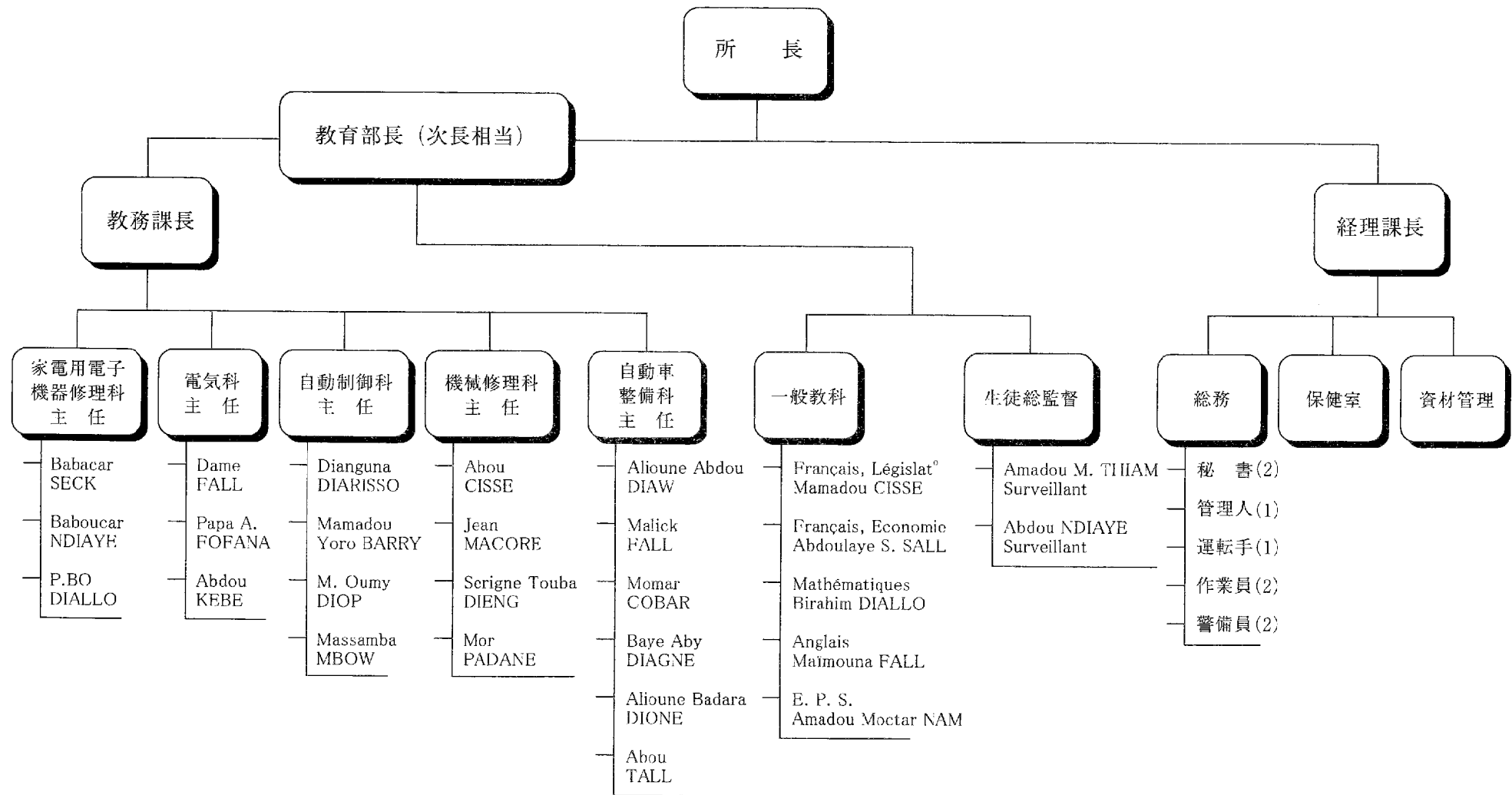


図3-1 日本・セネガル職業訓練センター組織図

### 3 - 2 - 3 運営予算

CFTPの必要経費は国の予算と受講料によって賄われている。国の予算は十分とは言い難いが年々増額が図られており、その執行についても特段の支障はない（表3 - 3 ~ 表3 - 5）。

表3 - 3 財源

年	支給予算 上段：運営経費 下段：燃料費	自己収益	自己収益 からの支出	支出合計
1992	40,000,000 1,202,000	19,901,166	19,845,430	60,488,055
1993	11,753,000 277,000	24,415,400	23,741,178	35,487,598
1994	4,700,000 100,000	36,789,280	39,027,610	43,827,610
1995	4,700,000 110,000	90,967,121	87,356,227	92,166,227
1996	6,700,000 210,000	70,076,303	69,450,994	76,360,994
1997	6,298,000 210,000	65,672,150	61,895,259	68,403,259
1998	5,522,000 173,000	85,135,612*	83,000,000*	88,695,000*

（注）\*：予測値

表3 - 4 特別支出（独自の拡張、修復工事）

年	内 容	金 額
1994	ポンプ施設改修	1,230,000
	屋根工事（改修）	2,531,700
1995	レストラン休憩室建設	2,666,105
	多目的運動場建設	2,123,955
1996	空気圧ラボ建設	2,520,000
1997	外壁工事	30,000,000
1998	（工業短大用）ラボ建設	35,265,000*
計		76,336,760

（注）\*：準備中

表 3 - 5 予算計画 (1998 ~ 2001)

年	運 営 予 算 計 画		合 計
	国家予算からの割り当て	自己収益	
1998	5,695,000	30,000,000	35,695,000
1999	12,000,000	33,000,000	45,000,000
2000	25,000,000	34,500,000	59,500,000
2001	25,000,000	34,500,000	59,500,000

- 1 . 本予算計画の予測している金額は、運営費の通常支出についてのものである。
- 2 . 光熱費（水、電気、電話）と人件費は国民教育省の負担となる。

### 3 - 2 - 4 訓練内容

CFPTでの訓練は、養成訓練(技能工免状：BTコース)のみであったが、1989年より在職者訓練、1990年より外国人訓練生の受け入れ、1993年より夜間訓練コースを実施している。

#### (1) 技能工免状（BT）コース

このコースは、表 3 - 6 に示すように、

- ・ 中卒者を対象とした3年間のコースで、
- ・ 修了時、技能工免状（BT）の受験資格を取得でき、
- ・ 1学年の定員は55名で、全体の収容能力は165名となっている。

協力期間終了により日本人専門家が帰国した後も、セネガル側で円滑に管理運営を行っている。

表 3 - 6 BTコースの科名、訓練期間および定員

訓練科名	訓練期間	訓練生定員
電子機器	3年	16名
電気	3年	17名
制御技術	3年	10名
自動車整備	3年	12名
合 計		55名

現行の訓練内容は、産業界のニーズを踏まえ効率的な訓練が行えるように当初の訓練コースを再編成したものであり、1998年10月から実施されている。

すなわち、当初の自動制御科に機械修理工科の内容を組み入れて制御技術科としたものであり、したがって、訓練コースとしては1コース減少したが、訓練生定員は当初の50名か

ら55名に増加している。

各科の訓練カリキュラムについては、巻末資料1に示す。

## (2) 在職者訓練

在職者訓練は、在職者の技能向上、再訓練および専門分野の職種転換を目的としたものである。実施にあたっては企業とCFPT間で事前に打合せを行い、企業ごとに要望（訓練内容、時間数など）を聴取している。CFPTはこのように、企業のニーズをベースにした注文訓練体制を取っており、訓練職種としては、電子、電気、情報、自動車整備、機械修理および溶接分野を開講している。

なお、この在職者訓練は有料であり、CFPTの重要な財源となっている。また、同訓練コースを実施することにより、カウンターパート自身の技術・技能力の向上にもつながっている。

## (3) 夜間訓練

夜間訓練は、CFPTの技能工免状（BT）コースへの入校希望者が多いことから、これらの需要に応えるために設けられた。この訓練の受講者は、昼間のBTコースの入校試験を諸事情で受験できなかった者、同入試が不合格であった再受験者および一般企業の在職者などである。

訓練は午後5時から8時まで実施されている。

なお、このコースも在職者訓練と同様に有料であり、CFPTの財源になっている。

### 3 - 2 - 5 訓練実績

#### (1) 技能工免状（BT）コース

##### 1) 応募および入校状況

1990年以降の応募者数、受験者数、合格者数および入校者数の推移を表3-7に示す。なお、技能工免状（BT）コースの入校試験は、1997年から、5地方都市（ジガンショール、サン・ルイ、カオラック、ティエスおよびディウルベル）においても実施されるようになった。

表3 - 7 応募者、受験者、合格者および入校者数の推移

(単位：名)

年度	応募者数	受験者数	合格者数	入学者数	志願倍率(%)
1990	250	242	113	85	35.1
1991	456	450	131	111	24.7
1992	483	483	206	91	18.8
1993	546	537	163	86	16.0
1994	471	459	169	92	20.0
1995	543	537	NA	75	14.0
1996	765	739	250	98	13.3
1997	915	832	237	112	13.5
1998	656	611	113	46*	7.5
平均	568	544	173	89	16.4

(注) \*振り分け人数

募集に関しては、国民教育省の試験担当部門が一括して募集から合格発表までを行い、50名がCFPTへ、残りが他の教育訓練施設(卒業時にBTの受験資格を与えられるコースを有する3校(ドラフォス工業技術高校、セイディナ・リマムライ高校、アンドレ・ペイダウアン技術高校))へ振り分けられる。1998~1999年の入校者の予想値を表3 - 8に、1984年から1997年までの生徒数の推移を表3 - 9に示す。

表3 - 8 生徒数(予想値)(1998~1999年)

国	第1学年			第2学年				第3学年					合計
	ELN/ET	ELM	MA	ELN	ET	ELM	MA	AE	EI	ET	MG	MA	
セネガル	17+9	10+0	11+0	12+2	11+1	10+0	9+1	12+0	7+3	10+1	6+0	4+1	136
ガボン	1+0	-	-	2+0	-	-	2+0	-	1+0	-	-	1+0	7
ベナン	1+0	-	-	-	1+0	-	-	-	-	-	-	1+0	3
象牙海岸	-	-	-	-	1+0	-	-	-	-	-	-	-	1
コンゴ民主共和国	-	-	-	-	1+0	-	-	-	-	-	-	-	1
レバノン	2+0	-	1+0	-	-	-	-	-	-	-	1+0	1+0	5
中央アフリカ	-	-	-	-	1+0	-	-	-	-	-	-	-	1
フランス	1+0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
チャード	1+0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
モーリタニア	-	-	-	-	1+0	-	-	-	-	-	-	-	1
合計	32	10	12	16	17	10	12	12	11	11	7	8	157
総数 = 158 { 11.5% 女生徒 (18) 88.5% 男子 (139) 内、13.4% が外国人 (21) }													

ELN = 家電用電子機器修理  
 ET = 電気  
 ELM = 制御技術  
 MA = 自動車整備  
 AE = 電子機器  
 EI = 自動制御  
 MG = 機械修理

注：最初の数字が男子、次の数字が女子  
 (例 17+9：男子生徒17名、女子生徒9名)

表 3 - 9 生徒数の推移

学年	訓練コース	84/85	85/86	86-87	87/88	88/89	89/90	90/91	91/92	92/93	93/94	94/95	95/96	96/97	97/98
第 1 学年	ELN	17	20	20	20	20	21	20	24	23	24	24	24	24	24
	ET	-	10	10	10	10	12	12	-	12	12	12	12	9	12
	MG	10	10	10	9	8	9	10	10	10	10	9	10	10	10
	MA	7	8	-	9	10	10	-	10	12	12	12	11	11	12
	小 計	34	48	40	48	48	52	42	44	57	58	57	57	54	58
第 2 学年	AE	-	8	9	9	9	8	8	10	12	11	12	12	11	12
	EI	-	8	6	9	9	10	10	10	12	12	12	10	12	12
	ET	-	-	7	8	8	6	10	12	-	13	13	9	13	12
	MG	-	9	9	9	9	7	8	9	10	10	10	9	10	9
	MA	-	6	8	-	-	10	8	-	12	12	12	12	10	10
小計	-	31	39	35	35	41	44	41	46	58	59	52	56	55	
第 3 学年	AE	-	-	8	9	8	10	9	9	11	12	12	13	11	6
	EI	-	-	8	8	8	10	10	9	11	12	12	11	10	11
	ET	-	-	-	4	4	9	8	10	12	-	12	13	6	11
	MG	-	-	9	10	9	10	9	8	10	10	8	10	7	7
	MA	-	-	6	12	11	-	9	11	-	12	10	8	9	8
小 計	-	-	31	43	40	39	45	47	44	46	54	54	55	43	
合 計		34	79	110	126	123	132	131	132	147	160	170	164	153	155

ELN = 家電用電子機器修理  
 EI = 自動制御  
 MA = 自動車整備

ET = 電気  
 MG = 機械修理  
 AE = 電子機器

一方、応募者を広範囲から選抜するため、常に以下のような募集のための広報活動を実施している。

- ・ 毎年カレンダーを作成し、企業、学校および関係機関に配布
- ・ CFPTのパンフレットを作成し、活動状況と入校要領を説明
- ・ 民間ラジオ局(まれにテレビ)でコマーシャルを放送
- ・ 企業の雑誌、政府系日刊紙『ソレイユ』などに宣伝を掲載
- ・ CFPTの外部に看板を設置
- ・ 宣伝用ネオンサインを交通量の多い道路脇に設置
- ・ 訪問者に業務内容、活動状況を説明
- ・ 展示会、イベントへの参加
- ・ 職業訓練関係の諸シンポジウムへの参加
- ・ 中等学生の進路指導相談の場でフォーラムを実施
- ・ 予算と手段の許す範囲であらゆる手段を講じる

## 2) 卒業生の技能工免状（BT）資格取得状況

合格率は、平均して70%以上の高率である。国民教育省職業訓練局によれば、この数字は他の教育訓練施設と比較しても好成績であるとのことである。CFPT卒業生のBT取得状況を表3 - 10に示す。

表3 - 10 B T取得状況

年 度 専 門 分 野	1987	1989	1990	1991	1992	1993	1994	1995	1996	1997	1998	合計	合格率 (%)
AE	6/8	6/8	8/10	5/9	8/9	6/11	5/12	7/11	4/13	3/9	5/6	63/106	59.4
EI	6/7	7/8	8/9	10/10	9/9	7/11	8/12	12/12	9/11	10/10	11/11	97/110	88.2
ET	-	3/4	7/9	8/8	9/10	7/12	-	10/12	10/13	5/6	9/11	68/85	80
MA	4/6	12/12	-	6/9	10/11	-	2/12	10/10	4/10	3/9	5/6	56/85	66
MG	7/8	6/8	8/10	8/9	3/8	4/10	6/10	5/8	5/8	6/9	6/8	64/96	67
合計	23/29	34/40	31/38	37/45	39/47	24/44	21/46	44/53	32/55	27/43	36/42	348/482	-
合格率(%)	79.3	82.5	76.3	82.2	83	54.5	46	83	58.2	63	86	72	

\* 6/8 = 8名の応募に対して6名が合格

AE：電子機器 EI：自動制御 ET：電気 MA：自動車整備 MG：機械修理

## 3) 卒業生の就職状況

平均して80%以上の就職率を維持している。このことはセネガルの雇用状況を考慮すると、CFPTの卒業生の実力が相当高く評価されているとみてよい。今回、卒業生の就職先であるセネガルの代表的な企業3社を訪問し、直接卒業生にインタビューするとともに、実際の作業現場を視察、同時に彼らの上司へのインタビューを行った。その結果、職場の上司は、CFPT卒業生の基礎学力と実際の現場の技術的な問題に対処できる技術・技能を高く評価している。

なお、セネガルではスタージュと呼ばれる試用期間（雇用とはみなされない）を通常2～3カ月取った後、正式に採用されることになっている。

一方、卒業生の就職先での雇用レベルをみると、大体において厚遇されており、なかには職工長として採用された卒業生もいる。

CFPT卒業生の雇用状況を表3 - 11に、就職先リストを巻末資料2に示す。

表3 - 11 CFPT卒業生の雇用状況

年度	電子機器		自動制御		電 気		機械修理		自動車整備		合計	%
	NT	TE	NT	TE	NT	TE	NT	TE	NT	TE		
1987	6	6	6	6(3)	-	-	8	8	3	3	23/23	100
1989	4+2	4	6+1	6	3	3	6	6	10+2	8	27/29	93
1990	8	7	8	7	7	7	7	7	-	-	28/30	93
1991	5	5	7+3	6	8	6(1)	6+2	6	6	6	29/32	91
1992	7+1	7(1)	8+1	6	7+2	6(1)	4	4	9+1	7	30/35	86
1993	5+1	5(1)	7	6(2)	7	7	6	6	-	-	24/25	96
1994	6	6	9+1	9(1)	-	-	6+1	6	1+1	1	22/22	100
1995	8+1	8(2)	15+2	14(1)	10+1	10	6+1	5	11	4	41/50	82
1996	4	3	8+1	5	9+1	8	4+1	4	4	1	21/29	72
1997	4	4	7+4	1	3+2	2	7	5	3+2	0	12/24	50 <sup>*3</sup>
1998	9	16 <sup>*1</sup>	9+2	0 <sup>*1</sup>	9+1	1 <sup>*1</sup>	6	6 <sup>*1</sup>	11	0 <sup>*1</sup>	13/44 <sup>*1</sup>	30 <sup>*3</sup>
合計	57+5	55(4)	81+13	66(7)	54+6	49(2)	60+5	57	47+6	30	257/299	86
%	96%		81%		91%		95%		64%			

NT：技術者数

TE：就職済み

(1)：内1名は自営業

%：就職率

4+2：4は就職希望者数が4名、外国人あるいは故人が2名

\*1：暫定値

\*2：1997年度までの合計（1998年度分を除く）

\*3：セネガルでは通常、学校を卒業後に就職活動を開始するため、卒業後あまり時間がたっていない1997年度、1998年度の卒業生の就職率は低くなっている。

## (2) 在職者訓練

在職者訓練は1989年12月以来実施されており、実施回数で147回、受講者数1309名、延べ訓練時間数1万3084時間を実施している。なお、コースの詳細については巻末資料3に示す。

## (3) 夜間訓練

1993～1994学期から夜間訓練を実施しており、現在、情報、電子および電気機械関係のコースを開いている。夜間訓練の実績を巻末資料4に示す。受講者は931名、BT資格取得者は37名となっている。

## (4) 外国人留学生の受入れ

外国人訓練生の受入れは、1992～1993年度から実施しており、これまでに17カ国、138



名が受講している（巻末資料5）。セネガルは西アフリカ地域で最も工業化が進んでいる国のひとつであり、同国内で働く外国人からCFPTへの入校希望があったことから、受入れが開始されるに至った。今後の受入方針としては、周辺諸国がCFPTでの訓練に示す関心を考慮して、セネガル人訓練生の利益を損なわない範囲で域内協力を維持するとしている。

### 3 - 3 指導員への技術移転

#### 3 - 3 - 1 指導員の配置状況

各科の指導員は、組織図（図3 - 1）に示すように家庭用電子機器修理4名、電気4名、自動制御5名、機械修理5名、自動車修理7名、一般教養5名の合計30名が配置されている。採用時期については指導員リスト（巻末資料6）に示すとおりである。

#### 3 - 3 - 2 指導員の資格取得状況

セネガルの政令により、BT取得の受験資格を授与するための訓練を担当する指導員は以下の資格を有していなければならない。

- 1) 中等教育の教員で、中等技術職業訓練技能証書（CAESTP）を取得していること
- 2) 中等教育の指導員で、中級技術職業訓練技能証書（CAEMTP）を取得していること
- 3) 大学入学資格試験（バカロレア）取得後の実務経験が、上記1)が5年、2)が4年必要であること

CFPTの指導員30名のなかで、15名が上記の1)または2)を保有している。

指導員の1998年11月現在の資格取得状況を表3 - 12に示す。

表3 - 12 指導員の資格取得状況

	電子	自動制御	電気	機械修理	自動車整備	一般教養	合計
PES	0	1	0	5	0	2	8
PEM	0	0	2	0	2	3	7
MP	3	3	2	1	2	0	11
その他	1	1*	0	0	2	0	4
合計	4	5	4	6	6	5	30

PES：中等技術職業訓練技能証書取得者（教員）

PEM：中級技術職業訓練技能証書取得者（指導員）

MP：バカロレア取得後実務経験3年

その他：MP以下、ただし、自動制御科（\*印）を除く

プロジェクト方式技術協力の技能工免状（BT）訓練では、指導員に対する訓練が技術、教育能力の点で満足のいく結果がもたらされた。しかしながら、指導員が日本での研修などによって取得した資格は、セネガルでの公務上の資格（給与）の昇格にはつながりにくい。

MPクラスの11名の指導員をPESレベルへ引き上げるための補足訓練を行う必要がある。セネガル政府は、この指導員の資格取得問題を最大の懸案事項として、現在、対応策を検討中である。このため、現在実施中のプロジェクト方式技術協力〔上級技術工免状（BTS）コース〕の枠内で、ダカール上級ポリテクニク（EPS）と日本の職業能力開発大学校（PTU）との間に以下のような協力協定締結の要望書が、セネガル側から提案されている。すなわち、

- 1) PTUでの「職業訓練指導員コース」を受講すること。
- 2) これに引き続き、EPSでの1年の訓練を受けること。

〔これを修了すると、中等技術職業訓練技能証書（CAESTP）の免状が与えられる〕

この2点を実現すれば、非公務員であるMPクラスの指導員がPESレベルの資格を得ることができ、公務員となることができる。

セネガル政府は、この協定が実現することを強く希望している。

### 3 - 3 - 3 日本人専門家の現地指導および日本での研修による技術移転

カウンターパートの日本での研修は、初期の段階では2年間実施され、日本語および技術移転だけでなく訓練施設の管理運営の方法も移転されその成果が生かされている。

また、アンケートによれば、当センターでの技術移転に関しては、語学力の問題および技術移転のための時間の制約もあったが、日本人専門家およびカウンターパートの努力により所期の目的を達成している。今回の調査で、この件に関しCFPTの所長から特に発言があり、技術移転の方法と成果を高く評価しているとのことであった。

一方、以下の分野では不十分であったとの指摘があった。

- ・プロジェクト方式技術協力の終了後、数値制御旋盤が故障したため、あまり活用されなかったこと
- ・情報工学が、ソフト、ハードの発達に合わせた規模で協力が行われなかったこと
- ・自動車整備、特に電子制御燃料噴射装置、自動変速機関連の技術移転が不十分であったこと

### 3 - 3 - 4 カウンターパートから一般指導員への技術移転

アンケート調査によれば、教務課長と各学科主任の指導のもと、各学科においてカウンターパートとプロジェクト方式技術協力終了後に採用された指導員との間で技術移転が行われた。

この結果は満足すべきもので、指導員間の協力関係を強化するという成果をもたらすと同時

に在職者訓練のコース開設の準備などで両者が協力し合うなど、センターの活動を活性化するのに大いに役立っている。

### 3 - 3 - 5 教材の作成および整備状況

開発教材を、具体的な数字をあげて評価することはできないが、日本人専門家の指導により当初作成された教材のデータバンクをもとに、協力終了後も改善に努め、教材は質、量ともに充実してきている。特に内容については常時企業のニーズを取り入れるなどして、積極的に見直しが行われている。各科では、学科、実技ともに技能工免状（BT）資格取得用教材および在職者訓練用教材のコピーをそのつど訓練生に配布している（ただし、教材は大規模なセミナーの開催時以外には、製本して訓練生に配布しないことにしている）。

BT訓練生および在職訓練生に配布する教材は、週に平均して1000ページにも及んでいる。

## 3 - 4 機材および施設の活用状況

### 3 - 4 - 1 日本からの供与機材

日本から供与された主要訓練機材は最大限活用されており、一部を除き訓練ニーズに十分応えているが、技術革新の進歩と産業界のニーズの変化に伴い、新しく機材を補充する必要がある。また、今回の調査において、故障などにより現在使用できないものとして、CFPTより表3 - 13の機材が指摘された。

### 3 - 4 - 2 セネガル側が整備した機材

技術革新の進歩と産業界のニーズの変化に応じて更新の必要があり、以下の機材をセネガル側が独自に整備した。

- ・自動車整備科用のエンジン部品
- ・情報工学用の中古コンピューター
- ・視聴覚機材（テレビ、ラジオカセット、ビデオデッキ）
- ・電子機器科用テレビ6台
- ・機械修理科用機械部品、機器（減速装置、ポンプ、変速機）
- ・そのほか教室の机、製図室の机の新規制作

しかしながら、セネガルの財政事情により、機器の整備は十分には行われない状況である。

### 3 - 4 - 3 訓練機材および施設の保守管理

施設管理運営のための予防保守管理および実際の修理は、本センターの担当職員が実施しており、訓練機材の修理は、教務課長の指導のもと、指導員によって行われている。また、消耗

品と小資機材の補充は、訓練を実施するうえで現在CFPTにとって最大の課題のひとつであり、教務課長および経理課長の大きな役割となっている。

CFPTでは、セネガルで購入できる消耗品については、質を確保しつつできるだけ安い価格で購入するよう努力しているが、地元で買えないものは、CFPTの職員が日本での研修の折に購入する場合もある。

部品についても、機器によってはセネガルで入手可能なものもあるが、常時入手できるとは限らない。また、相当数の故障機器があることから、今後早急な対応が望まれる。

表 3 - 13 故障などにより現在使用できない機材一覧

---

自動車整備

- 01 スターター試験台（電子基盤の問題）
- 01 バッテリーチャージャー（電気の問題）
- 01 インジェクションポンプ試験台（油圧ポンプ）
- 01 オシロスコープ（電気故障）
- 01 コマツ起重機（ラジエーター）
- 01 ヘッドライトテスト機（照準器の欠除）

機械修理

- 01 NC 旋盤（マンドレル回転、自動制御装置）（自動運転が不可）
- 01 テールストックのストッパーが不良（普通旋盤）（ベアリング破損）
- 01 平面研削盤の研削くず除去装置のモーターの故障
- 01 立形フライスの主軸の故障
- 01 立形フライス盤のコレットチャックの不足（1個）
- 01 のこ盤の切込みスピードの調整不良
- 01 スポット溶接機電気系統に問題あり
- 03 ドラフター不調
- 03 ガス溶接プレッシャーメータ（マノメーター）不調
- 02 ドリル研削盤（13 までの）ベルトがない（セネガルにある）
- 01 ハイドリックプレスのおイル漏れ

電子機器

- 01 ナショナルポータブルカメラ：機器の故障（テープの取出しシステムの故障：使えない）
  - 01 日立カメラ：機器の故障（テープを入れると動かない：使えない）
  - 05 日立ビデオデッキ（ヘッドの破損）
- パワサプライの調整：セネガルで部品入手可

自動制御

- 01 Robot de rangement（インタフェースの故障：動かない）
- 01 コーヒー作成機（パーツは日本から）
- 01 電気故障（圧力チェックシステム不良）
- 02 OHP：ランプがない（6台あるうち1台のみ稼働）
- 01 マッキントッシュ用プリンター（インクカートリッジがない）
- 05 マザー基盤と電気システムの故障

- 01 電気故障〔プログラマーの電気システム（小さいダイオード）の故障〕
- 08 デジタルサーキットテストボックスP C Bの故障
- 08 デジタルサーキットテストボックスP C Bの故障
- 03 パワーエレクトロニクスの説明書がない（サーキット回路図がない）

#### 電気

- ワットメーター、フェーズメーター（ボビンの故障）
- 04 レオスターのボビンの故障
- 06 S 6 コントローラー：キーボードとOut putの故障（プログラマブルコントローラーの故障）
- 01 キーボードが故障（プリント基盤の）
- 01 （木材用電気カッターのモーターが駄目）
- 01 木材切断用モーター故障
- 01 コンプレッサーモーター故障

#### Salle Informatique（コンピューター室）

- 02 U P S 電圧安定装置の故障：部品がない
- 01 ビデオの故障：メカニズム？
- 02 C P U 286の電源の故障
- 08 フロッピーディスクのベッド故障
- 01 C R Tの故障
- 04 P C 98ハードディスク、電源が故障（プリンターのリボン、電源）
- 04 プリンターのリボンと電源

消耗品の補充

---

### 3 - 5 アンケート調査およびインタビュー結果

#### 3 - 5 - 1 対象者および調査方法

<対象者>		<調査方法>
1) 国民教育省職業訓練局長		インタビュー
2) CFPTセンター長、運営管理者		インタビュー・アンケート
3) CFPTのカウンターパート指導員	12名	アンケート(12名)
4) CFPTのカウンターパート以外の指導員	8名	アンケート(8名)
5) CFPTの在校生(養成訓練コース)	延べ26名	アンケート(10名) ・インタビュー(16名)
6) CFPTの在校生(在職者訓練コース)	15名	アンケート(15名)
7) CFPTの卒業生	延べ19名	アンケート(10名) ・インタビュー(9名)
8) CFPT卒業生の雇用主	8名	アンケート(8名)

アンケート調査は、質問票(巻末資料7)をあらかじめCFPTに送付し、調査団がセネガル訪問時に回収した。また、CFPTおよび卒業生就職先企業を訪問して関係者にインタビューした。

#### 3 - 5 - 2 調査結果の概要

調査対象者別の回答概要は表3 - 14のとおりである。

表3-14 セネガル共和国 日本セネガル技術職業訓練センター 調査対象者別回答

評価項目	調査項目	調査対象者別の評価									
		国民教育省	CEFTセンター長 及び管理者	カウンターパート 指導員	カウンターパート 以外の指導員	在校生 (養成訓練)	在校生 (在職者訓練)	卒業生	卒業生の 雇用主	JICA調査団 報告書等	
目 標 達 成 度	(1) カウンターパートの技術修得度、維持の度合い ・指導員の定着状況 ・指導員資格の取得への取り組み ・専門家からの技術移転の効果的・効率的実施 ・日本研修のニーズとの整合 ・日本研修の効果的・効率的実施 ・日本研修の時期・期間の妥当性		○AAA ○AAA ○AAA	○ ○AA						○ ○	
	(2) 卒業生の技術修得度 ・卒業生数(中途退校率低さ) ・卒業生のBT資格取得	○ ○	○AAA ○AAA					○AA ○△A	○AA ○AA	○	
	(3) 卒業生及び在校生の満足度 ・指導内容、カリキュラム(量) ・指導内容、カリキュラム(質) ・指導員の学科指導 ・指導員の実技指導 ・施設 ・資機材					○AA ○AA ○AA ○AAA ○△C(冷房・図書館・寮の希望)AA ○B	AA AA AA AA B	○AA ○AA ○B ○A ○A			○△B(機材更新が必要)
	(4) 卒業生の修得技術と就職先の整合性 ・訓練内容、カリキュラム、教材等の産業界ニーズとの整合性 ・卒業生の就職状況 ・在校時進路希望と現職業との一致  ・修得技術の就職時における効果 ・修得技術の業務上のニーズとの一致	○ ○ ○		CAAA				○ ○	○	○	○△B(自動車整備科はBT資格故に就職が難しくなる(街の修理工場では見習いからのたたき上げの職人の方が安く雇える)) ○AAA ○AAA
	(5) CFPTの運営 ・組織 ・予算 ・職員待遇	○	○AAA ○AAA ○AAA	○AA ○AA ○AA	○AA ○AA ○AA						○ ○ ○
	(6) 訓練内容 ・訓練コースの再編成 ・応募者数の増加		○AA ○AAA	○AA ○AA	○AA ○AA	○△AA ○AA	B A	○AA	○	○ ○	
	(7) 教材の改訂状況 ・教材整備状況		○AA	○A	○A	○△B	B	○△B		○	
	(8) 機材、施設の維持管理状況 ・供与機材と訓練ニーズの整合性 ・供与機材の活用状況	○	○AA ○AA	○△A ○△B	○△A ○△B	○AA ○△B	A B	○△B ○A		○ ○	



評価項目	調査項目	調査対象者別の評価									
		国民教育省	CEFTセンター長 及び管理者	カウンターパート 指導員	カウンターパート 以外の指導員	在校生 (養成訓練)	在校生 (在職者訓練)	卒業生	卒業生の 雇用主	JICA調査団 報告書等	
効果	(1) プロジェクトの波及効果	○	○AA	○AAA	○A			○AA		○	
	(2) 就職先のCFPTに対する評価	○	○AA						○AAA	○	
	(3) 今後の職業訓練制度のあり方に与えた影響	○	○AA								
	(4) 周辺国への貢献		○AA			○(外国人学生)				○	
妥当性	(1) 国の上位計画における優先度	○									
	(2) 公的職業訓練制度の拡充政策	○									
	(3) 協力プロジェクトの成果は、今後のCFPTの発展を促す基礎として十分であったか	○	○AA								
自立発展性	(1) 組織としてのマネジメント能力 ・ 運営適正化への取り組み ・ 広報活動 ・ 就職斡旋 ・ 入学試験の改善 ・ 奨学金制度		○AA ○AA ○AA ○AA ○AA					○ ○A ○AA ○AA	○	○ ○ ○	
	(2) 指導員の自立性 ・ プロジェクト終了後の指導内容改善(量) ・ 同上(質) ・ ニーズに合わせた訓練内容改善への取り組み ・ プロジェクト終了後の移転技術の活用と発展 ・ プロジェクト終了後の移転技術のカウンターパート以外の指導員への普及 ・ カウンターパート以外の指導員への技術移転とそのシステム確立 ・ プロジェクト終了後時代のニーズに合う技術修得への取り組み ・ 教材、機材の開発、整備、メンテナンス ・ 日本人からの技術移転の効果のモニタリングの実施 ・ 日本人からの技術移転の効果のモニタリングの結果活用	○	○AA ○A ○AA	○△B ○A ○AA						○	
			○AA	○△B							
			○AA	○AA							○
		(3) 財政基盤 ・ 予算確保への取り組み	○	AA							○
		(4) 教育/訓練技術の適正度、産業界とのリンク	○	○AA						○	○

(注) 1. アンケートによる回答及び「JICA調査団報告書等」では、「良い」、「行っている」等の肯定的な回答には○印を、否定的な回答には△印と主な理由を付した。肯定的な回答と否定的な回答が混在する場合には○△と表記した。

2. また、アンケート調査において、「良い」「行っている」等の肯定的な回答をした人数の割合が、100%の場合にAAA、90～99%をAA、80～89%をA、60～79%をB、40～59%をCと表示した。

## 第4章 団長所感

### 4 - 1 達成度

今回の評価対象である日本セネガル職業訓練センター（以下訓練センター）の上位目標は、「中堅技能者を育成することにより、軽工業を中心とした二次産業を振興し、農業を中心とした経済からの脱皮を図る」であった。とすれば、訓練センターがこの目標にどれだけ貢献しているかどうかを評価するためには、訓練センターがセネガルの経済界にどのような影響をもたらしたか、という観点から行われなければならない。また、工業化がどの程度進展したか、ということにも目が向けられるべきである。しかし実際には、訓練センター自体が直接生産事業を行うわけでないため、こうしたマクロ的な評価は容易ではない。GNPなどへの寄与率などが算出できるならば、その数字によりかなりの程度まで客観的な評価ができることになるが、これも事実上不可能に近い。

こうした数字に代わるデータを求めるとすると、今回の調査で得た卒業生の就職率やBT合格率などということになる。また、雇用主側の卒業生に対する評価や、卒業生、在校生の訓練センターの授業内容に対する評価なども参考になる。

こうしたデータ、評価を指標にして判断するならば、訓練センターは当初の目的を達成していると評価できるだろう。

### 4 - 2 成功の理由

では、訓練センターが目的を達成した理由は何なのだろうか。大きく分けて3つあると思われる。

#### (1) 時宜にかなったプロジェクト

ひとつは、訓練センターが、セネガルの社会的要請に合致していたことがあげられる。時宜にかなったプロジェクトだったということである。これは、前述した卒業生の就職率、BTの合格率、受験生数などからもうかがうことができる。また、日本側の事前調査も適切に行われたことをうかがわせる。

#### (2) 各種調査結果の反映

次に、本プロジェクトのエバリュエーション調査およびアフターケア調査などの結果がある程度反映され、訓練センターが改善されていることがあげられる。たとえば、1990年のエバリュエーション調査での提言（在職者訓練の適切な実施、入学試験の試験場所の拡大など）も、かなりの部分が具体化されている。合同評価結果が生かされているのは望ましい姿であ

る。これまでの日本の援助のなかには、「施設を作ったらそれっきり」などというケースもあったといわれるが、この訓練センターについては、協力終了後のアフターケアはかなり入念に行われている。

### (3) 優秀なスタッフ

最後は、セネガル側関係者の努力と熱意があげられなくてはならない。学科の改編などにもみられるが、現在のスタッフはきわめて優秀であり、創意工夫で困難な局面を乗り越っている。夜間コースの開設や企業からの訓練生受入れ、また海外留学生受入れなど、財政面への寄与だけでなく、訓練センターの活性化にも貢献している。そのうえ、訓練用器材の管理などもほぼ完全に行われているのは特筆されていいだろう。こうした優秀なスタッフを得られたことが訓練センター成功の見逃すことのできない要素である。優秀なスタッフが得られたのは、日本に留学させ、日本語を学ばせてから技術習得をさせるなど、スタッフ教育が適切だったことが大きいと思われる。

## 4 - 3 今後の課題

成功したプロジェクトであっても、もちろんいくつかの問題点、改善すべき点は残る。むしろ成功したからこそ浮き彫りなる問題点もある。

### (1) きめ細かいアフターケアの必要性

そのひとつは、何台かの機械類が部品不足などで作動していないことである。高価な機器が、たったひとつの部品がないために作動しないというのは、どのような説明を聞いても理解しがたい。これはアフターケアの問題である。「アフターケア調査の結果が反映された」という成功理由と一見、矛盾するようだが、そうではない。作動しない機械類があるのは、アフターケア調査が大所高所からのものになりがちで、きめ細かいアフターケアができていないためである。機器類の故障、部品の破損は突然発生する可能性が高く、数年に一度のアフターケアでは対応できないケースが多いことは容易に推察される。そうした問題に対応するには、重要器材のメンテナンスについては、訓練センターと日本側の間に恒常的な連絡・通報体制があってもよいと思われる。

現地で賄えるものについては、訓練センター側の自助努力を求めるは当然だが、彼らの手に負えないもの（今回修復不能とわかった数値制御旋盤など）については、日本側と早急に連絡をとってれば、対応できたのではないだろうか。また、本当に部品の調達などが不可能であり、その機器が修復できないのであれば、これまた、早急にその旨を訓練センターに報告し、機器の処分を検討すべきである。そうすれば「無用の長物」が無駄なスペースを占

めることはなくなる。こうしたきめの細かさがこれからのアフターケアでは最も求められるのではないだろうか。

## (2) スタッフ養成

もうひとつは、スタッフの問題である。現在のスタッフはほとんどが日本への研修・留学経験があり、「日本的勤勉さ」を習得している。前述したように、訓練センターは彼らの努力と創意工夫によって運営されているのが実情である。だが、彼らも永遠にスタッフでいるわけではないだろう。計画的に後進のスタッフを育成しなければならない。人が代わった途端にうまくいかなくなることも、考えられないことではない。

優秀な人材をどのように発掘し教育していくかは、相手国のあることであり、そう簡単ではないが、今のうちに対策を考える必要がある。特に、この種の職業訓練施設運営のためのセネガル人専門家の養成に対して、日本としても支援していくことが望ましいだろう。

## (3) 学科再編

学科構成も改善すべきだろう。アフリカという地域特性や開発段階などを考慮すると、現地で希望が多かった情報関連（コンピューター関連）の学科や、環境関連の学科の設置などが求められているのではないか。授業内容についても、別途検討されているBTS（上級技術工免状）コースのような、より高度なものが求められている。

卒業生から「BTSコースには卒業生も入れるのか」という質問が多かったことに端的に示されるように、よりハイレベルの技術習得の要望は強い。こうした要望は、セネガルの工業化の進展に伴っていると思われる。現在の訓練センターを固定したものとせず、セネガルの発展段階に伴って不断に変革していくことが求められている。

## 4 - 4 おわりに

最後に、若干の提案をしたい。それは、訓練センターはフランス語圏アフリカ諸国における同種の施設でも3指に入るとまでいわれる成功を収めている。今、訓練センターに求められているのは、その成果をさらに拡大するような方策をとることである。それは、西アフリカ地域における中核的な訓練センターにすることではないだろうか<sup>(注)</sup>。

現在、訓練センターには、周辺諸国から留学生を招いている。これは訓練センター経営上の理由もあるが、非常に好都合である。留学生を受け入れるうえでの問題は、宿舍確保が難しいことにあるということだった。それならば、日本が寄宿舎を建設し、セネガルがこれまでのように留

(注) 1999年度から5年間の予定で、日本・セネガル職業訓練センターにおいて、フランス語圏アフリカ11カ国（セネガル、マリ、モーリタニア、トーゴ、象牙海岸、ニジェール、ブルキナ・ファソ、ギニア、ガボン、ベナン、中央アフリカ）を対象とした第三国集団研修「職業訓練」を開始した。

学生を招くというシステムを整備してはどうだろうか。周辺諸国でこの訓練センターと同様な施設を作り、同じような成功を収めるには、多額の資金と時間が必要になる。BTSコースの創設と同時に、そのようなシステムを早急に検討すべきではないかと思われる。

単発の援助を数多く行うというやり方は、もはや通用しない。この訓練センターのように成功した援助をベースにして、次の援助、よりグレードアップした援助を展開すること、援助を点から面に広げることが真剣に検討されるべきではないだろうか。

## 第5章 教訓・提言

### 5 - 1 きめ細かいアフターケア

今回の調査対象のように、自助努力により持続発展を続け、さまざまな波及効果をあげているプロジェクトに対しては、優先して協力終了後の補完協力を実施すべきである。それにより、よりいっそうの波及効果が期待でき、投資効果も高い筈である。

### 5 - 2 日本側支援団体との関係強化

プロジェクト方式技術協力の専門家の出身組織（職業訓練校、職業訓練大学校他）との密接な連携関係（単位認定制度による卒業資格など）を形成する。本邦研修で技術的補完を行うのみならず、資格取得上の単位交換制度など、より広いパートナーシップの構築を目ざす。

### 5 - 3 組織の自立発展に向けた努力

CFPTは、中央政府の財源不足によって逆に、自己財源確保の道を模索せざるを得なくなり、在職者訓練や夜間コースなどの有料研修を企画・開講することとなった。これは効を奏し、経営面での重要な資金源になる一方、関係企業との関係も緊密になり、その結果、卒業生の就職や企業需要の的確な把握が促進された。

相手側実施機関が有する施設や技術力が付加価値を生む素地を持っているのであれば、自己財源確保のための事業（在職者セミナー、夜間コースなど）を模索する必要がある。これらの事業実施のためには、関係企業との不断のコンタクトを通じた十分な市場調査が不可欠であり、そして、技術革新への努力や研修プログラムの積極的な宣伝も求められる。そのためには対外渉外専門のスタッフを配置する必要があり、また、相手国側実施機関の中核指導者に対しては、本邦研修において技術研修のみならずマネジメントについても研修科目に含めることが重要である。

### 5 - 4 地域協力への発展

資金、人材、言語などの関係から、西アフリカ地域において日本の技術協力プロジェクトを数多く展開することは容易でない。しかし、CFPTのように、自らがすでに仏語圏アフリカの地域協力の拠点になりつつある組織においては、たとえばJICAの地域訓練センターに位置づけるなどすれば、その地域において広範囲な協力効果をあげていくことができるであろう。

地域協力への発展の可能性があるプロジェクトについては、プロジェクト形成の段階から周辺国への効果拡張を視野に入れ、協力期間終了までに周辺国のニーズ調査などを行うことやアフターケアの実施など、持続的発展を助長する努力が有効である。

## 5 - 5 複合協力

CFPTではないが、今回の評価調査においてセネガルで参考視察したJICAの協力は、無償資金協力、青年海外協力隊など、それぞれの援助形態では効果が発現しているが、これらの形態間での有機的な関係づけの工夫がもう少しあってもよい。たとえば、青年海外協力隊員（保健婦、衛生隊員など）の活動と無償資金協力の村落給水プロジェクトのより密な協力関係の構築を積極的に進めていくべきである。

協力対象地区や現場単位でみた関連協力間の連携を促進するためには、地区ごとの開発課題、想定される協力形態をまずマイクロレベルでとらえた後に、全体のプロジェクト形成を行うことが望ましい。また、そのようなプロジェクトにおいて、関係省庁が複数にまたがる場合には、JICAが積極的に調整を行うことが重要である。





## 資 料

- 1 訓練カリキュラム
- 2 就職先リスト
- 3 在職者セミナー実施実績
- 4 夜間コースカリキュラム
- 5 周辺国からの入学者数
- 6 指導員リスト
- 7 質問票



# 1 訓練カリキュラム

. 家庭用電子機器修理									
分野	科目	学年	1年		2年		3年		係数
		学期							
一般	数学		3	3	3	3	3	3	3
	仏語		2	2	2	2	2	2	2
	英語		2	2	2	2	2	2	1
	体育		2	2	2	2	2	2	1
	経済				1	1			1
	法律						1	1	1
	計		09	09	10	10	10	10	
電気 / 電子	電気		4	4					4
	電磁気学		2	2					
	電気技術 / 安全工学		1	1					2
	アナログ		4	4	2	2			3
	デジタル回路		2	2	2	2			2
	電力電子工学						3	3	2
	計		13	13	4	4	3	3	
情報工学	DOS/Windows ベーシック		3	3					2
	Word-Excel-Access				2	2			2
	情報工学						4	4	3
	計		3	3	2	2	4	4	
機械工学概論	機械工学		1	1					1
	製図		3	3					2
	計		4	4					
計測 / テスト	電気計測		3	3					4
	電子計測				3	3	3	3	4
	計		3	3	3	3	3	3	
実技	手仕上げ		3	3					3
	電子回路組立				3	3	3	3	4
	修理				4	4			4
	計		3	3	6	6	4	4	
コンピューター機材	マイクロコンピューターメンテナンス				2	2	2	2	3
	計				2	2	4	4	
視聴覚機材	ラジオ、テレビ				7	7			4
	ビデオ						4	4	5
	計				7	7	4	4	
自動制御				4	4	4	4	3	
TOTAL GENERAL			35		35		35		

目的：家庭用電子機器の修理ができること。

. 電気科									
分野	科目	学年	1年		2年		3年		係数
		学期							
一般	数学		3	3	3	3	3	3	3
	仏語		2	2	2	2	2	2	2
	英語		2	2	2	2	2	2	1
	体育		2	2	2	2	2	2	1
	経済				1	1			1
	法律						1	1	1
	計		09	09	10	10	10	10	
電気 / 電子	電気		4	4					4
	電磁気学		2	2					-
	電気技術 / 安全工学		1	1	1	1	2	2	2-3-3
	アナログ		4	4					3
	デジタル回路		2	2	2	2			2
	電力電子工学						2	2	2
	計		13	13	4	4	3	3	
情報工学	DOS/Windows ベーシック		3	3					2
	Word-Excel-Access				2	2			2
	情報工学						4	4	3
	計		3	3	2	2	4	4	
機械工学概論	機械工学		1	1					1
	製図		3	3					2
	製造				2	2	3	3	2
	計		4	4	2	2	3	3	
計測 / テスト	電気計測		3	3					4
	測定実習				3	3			4
	計		3	3	3	3			
電気 / 機械	電気理論				3	3	2	2	3
	"				4	4	3	3	4
	計				7	7	5	5	
電子実習	回路手仕上げ		3	3					2
	電子回路				2	2			3
	計		3	3	2	2			
自動制御	製図				2	2	2	2	3
	工業配線				3	3	5	5	5
	自動制御						2	2	2
	計				5	5	9	9	
TOTAL GENERAL				35	35	35	35		

目的：電気工事と工業用自動制御の実施と修理ができること。

. 制御技術									
分野	科目	学年	1年		2年		3年		係数
		学期							
一般	数学		3	3	3	3	3	3	
	仏語		2	2	2	2	2	2	
	英語		2	2	2	2	2	2	
	体育		2	2	2	2	2	2	
	経済				1	1			
	法律						1	1	
	計		09	09	10	10	10	10	
機械理論	製図		4	4	4	4	4	4	
	機械概論		2	2	2	2	2	2	
	機械製造法						2	2	
	製造技術		2	2	2	2	2	2	
	計		8	8	8	8	10	10	
機械実習	Machine-outil (To,Fr,Rect °)		6	6	7	7	6	6	
	仕上げ-溶接		6	6			2	0	
	組立、分解						3	3	
	熱処理						1	1	
	計		12	12	7	7	12	10	
自動制御	自動制御				5	5			
	油圧						0	2	
	計		0	0	5	5	0	2	
電気	電気理論		4	4					
	電子理論		2	2					
	電力、電子計測				3	3			
	電気機器理論実習						3	3	
	計		6	6	3	3	3	3	
情報工学	DOS-Windows/Word/Exel				2	2			
	計		0	0	2	2	2	0	
TOTAL GENERAL			35		35		35		

目的： 自動制御装置、設置のメンテナンスができること。

自動車整備科：理論

カリキュラム

自動車整備科 教材	学年	1年		2年		3年		計
	学期	1	2	1	2	1	2	
内燃機関概論		2	2					4
シャーシ工学				2	2	2	2	8
製図		4	4	4	4	4	4	24
材料		2	2			1	1	6
機械工学概論		2	2	2	2	2	2	12
ディーゼル機関 自動車電装				2	2	2	2	8
基礎電気		2	2	2	2	1	1	10
計		12	12	12	12	12	12	72

自動車整備科：実習

カリキュラム

自動車整備科 実習	学年	1 年		2 年		3 年		計
	学期	1	2	1	2	1	2	
一般		9	9	9	9	9	9	58
理論		12	12	12	12	12	12	72
手仕上げ		5						5
板金					2		2	4
塗装					2		2	4
溶接		4					2	6
測定		2			2			4
機械作業		3						3
エンジン分解、組立調整、 船外機、修理作業			14		4	4	2	24
自動車分解、組立調整、 修理作業				14	4	10	6	34
計		14	14	14	14	15	15	86

## 2 就職先リスト

No	SIGLE	DOMAINE D'INTERVENTION	STATUT
1	A.I.S	Informatique et bureautique	Ste Privée
2	APS	Presse	Ste Nationale
3	Axelle-Technologie	Informatique et bureautique	Ste Privée
4	Buhan Teissère	Maintenance bureautique	"
5	Canal Horizon	TV	"
6	CAP Informatique	Informatique	"
7	CIMA	Construction métallique	"
8	CIFOP	Formation professionnelle	ONG
9	CGE	Matériels électriques	Ste Privée
10	C.S.P.T	Phosphates	Ste Nationale
11	C.S.S	Sucre	Ste Para-publique
12	DIAGRAM	Informatique	Ste Privée
13	D.H.I	Instrumentation-Horlogerie	"
14	ELECTROSEN	Raffinerie de combustibles	"
15	E.P.T	Enseignement Technique Supérieur	"
16	ERTEB-BCEAO	Electronique	"
17	ETS LE GOUYE	Bureautique	"
18	FUMOA	Produits plastiques (Emballages etc)	"
19	GIE SEM	Maintenance Matériels Electroniques	"
20	Gde Confiserie de l'AO	Confiseries	"
21	Gd Moulins	Produits alimentaires (farine...)	"
22	G.I.E G.T.S	Matériels Electriques	"
23	I.C.S	Produits chimiques et engrais	Ste Nationale
24	INTELEC	Télécommunication (Matériels)	"
25	Interface Bureautique	Informatique	"
26	JET Informatique	Informatique	"
27	LIFTEL	Matériels et Maintenance	"
28	MICROSEN	Informatique	"
29	Nestlé-Sénégal	Produits alimentaires (lait etc...)	"
30	NIPPONSEN	Craie	"
31	Peyrissac	Equipements Electroniques	"
32	Projet Américain	-	ONG
33	RTI	Informatique	"
34	SACICA	Automobile	"
35	SAR	Raffinerie de combustibles	"



36	SBS SPHERE	Informatique	"
37	SEMAP	Matériels électroniques	"
38	SENAUTO HONDA	Automobile	"
39	SENELEC	Energie Electrique	Ste Nationale
40	SHELL	Combustibles (Essence...)	Ste Privée
41	SOCOCIM	Ciment	"
42	SONATEL	Télécommunication	"
43	SONEES	Distribution d'eau	Ste Privée
44	SONACOS	Produits oléagineux (huile etc...)	Ste Nationale
45	SOPROCA	Automobile	ONG
46	SOTRAMAT	Produits Plastique (Emballages...)	Ste Privée
47	SOTRAC	Transport en commun	Ste Nationale
48	SISCOMA	Matériels agricoles	Ste Nationale
49	SIPS	Papeterie	Ste Privée
50	SITA	Télécommunication Aérienne	Ste Privée
51	STRAFOR	Maintenance Bureauque	"
52	STUDIO 2000	Produits audio-visuels (cassettes...)	Ste Privée
53	TELECOM PLUS	Matériel et Maintenance télécommunication	"
54	TOTAL	Combustibles (Essence, gas-oil...)	"
55	UNICEF	-	Organisation Internationale
56	UNIVERS	-	-
57	Université ST-LOUIS	Enseignement Supérieur	Ste Privée
58	ELF	Combustible (Pétrole, essence, ...)	Ste Privée
59	Mobil	"	"
60	COFISAC		"
61	IPS	Presse Internationale	"
62	CSE	Travaux routiers	"
63	RTS	Radio TV (Presse)	"
64	SAGAM	Surveillance, Gardiennage	"
65	ASECNA	"	Ste Inter-Afrique
66	SOPHIA	"	Ste Privé
67	Radio DOUNYA	Presse (Radio)	"
68	VISA-TELECOM	Télécommunications	"
69	MTOA	Tabac	"
70	SOBOA	Limonade	"
71	CCBM	Equipements Electroménagers	"
72	Air Afrique	Transport Aérien	O. Multi nationale
73	MATFORCE	Mécanique	Ste Privée

74	AFCO	Outillage divers, Mécanique	“
75	EXIMCO	Mine	“
76	RENAULT	Mécanique Auto	“
77	Lampe Afrique	Ampoule d'éclairage	“
78	Colgate Palmolive	Savon, produits cosmétiques	“
79	Le “Soleil”	Presse écrite	Société Nationale
80	SENCHEM	Produits chimiques	Société Privée
81	Biscuiterie de Médina	Produits alimentaires	Société Privée
82	Polyéthylène Sénégal	Produits plastiques	“ ”
83	SATREC	Produits alimentaires	“ ”
84	Silicon Valley	Informatique	
85	INTELECT	Electricité	
86	LABOREX		
87	AFCO	Outillage, mécanique auto	
88	BITS	Informatique	
89	Point Micro	Informatique	Société Privée
90	SDE	Distribution eau	“
91	TELE-PLUS	Audio-visuel	“
92	BUS-INFO	Informatique	“
93	ATI	“	“
94	SOPROCA		“
95	La Galette	Produits alimentaires	“

### 3 在職者セミナー実施実績

No	専門	内 容	開始	終	時間数	参加	依頼企業
1	Méca. Auto	Moteurs/Equipements Diesel	21/12/89	23/12/89	21	11	C.M. Kaolack/Fo F.Ebert
2	Electronique	Electron. Analog. et digitale	26/12/89	25/01/90	100	10	SONATEL
3	Méca. Auto	Moteurs/Equipements Diesel Ziguin.	27/12/89	29/12/89	21	14	C.M. ZIG./Fond. F.
4	Méca. Auto	Electricité Auto	15/02/90	17/02/90	21	15	C.M. ZIG./Fond. F.
5	Informatique	Traitement/texte Word Perfect 5.0	26/03/90	03/04/90	24	9	SONATEL
6	Méca. Auto	Systèmes / freinage	28/03/90	30/03/90	21	14	C.M. ZIG./Fond. F.I
7	Electronique	Electronique et technq./dépannage	28/03/90	23/05/90	150	10	SONATEL
8	Méca. Auto	Electricité Auto et Moteurs Diesel	05/04/90	07/04/90	21	13	GIE Diapo Auto Dak Fond. F.Ebert
9	Informatique	DBASE	21/05/90	01/06/90	24	5	SONATEL Groupe
10	Informatique	DBASE	05/06/90	12/06/90	24	5	SONATEL Groupe
11	Electronique	Electronique digitale	11/06/90	24/07/90	60	2	SONACOS - SEID
12	Informatique	Informatique Industrielle	14/06/90	11/07/90	20	1	SONACOS - SEID
13	Informatique	LOTUS 1.2.3 - MSDOS	13/06/90	21/06/90	24	5	SONATEL Groupe 1
14	Informatique	LOTUS 1.2.3 - MSDOS	21/06/90	28/06/90	24	5	SONATEL Groupe 1
15	Electronique	Elec. dig./Microprocesseurs	25/06/90	30/07/90	130	9	SONATEL Préformation TFK GR
16	Electronique	Elec. dig./Microprocesseurs	25/06/90	27/07/90	130	12	SONATEL Préformation TFK GR
17	Informatique	LOTUS 1.2.3 - DBASE	09/07/90	07/08/90	54	11	SONATEL
18	Electronique	Elec. digit./Microprocesseurs	20/08/90	21/09/90	130	13	SONATEL Préformation TFK GR3
19	Electronique	Elec. digit./Microprocesseurs	03/09/90	05/10/90	130	11	SONATEL Préformation TFK GR4
20	Electronique	Elec. digit./Microprocesseurs	12/11/90	02/01/91	75	1	SONACOS - SEIZ
21	Informatique	MS / LOTUS 1.2.3	22/12/90	02/01/91	32 32	13 13	E.N. Secrétariat E.N. Secrétariat
22	Electronique	Technique de dépannage (théorie)	09/01/91	12/01/91	28	15	C.M. Kaolack / Louga Diourbel - F.F.Ebert
23	Informatique	WORD PERFECT 5.0	16/02/91	21/02/91	40	13	E.N. Secrétariat
24	Informatique	WORD PERFECT 5.0	22/02/91	27/02/91	40	13	E.N. Secrétariat
25	Electronique	Technique de dépannage (théorie)	18/02/91	21/02/91	28	15	C.Métiers Kaolack /Louga Diourbel - F.F.Ebert
26	Electronique	Techn. dépannage Informatique Industrielle	28/03/91	12/04/91	50	10	SONATEL
27	Electronique	Technique de dépannage (théorie)	08/03/91	12/04/91	35	15	C.M. Kaolack / Louga Diourbel - F.F.Ebert
28	Informatique	T. TEXTE WORD PERFECT 5.0	09/04/91	26/04/91	50	10	SONATEL
29	Electronique	Electronique Informatique Industrielle	18/04/91	25/05/91	120	10	SONATEL
30	Electronique	Technique de dépannage (théorie)	15/05/91	18/05/91	28	15	C.Métiers Kaolack /Louga Diourbel - F.F.Ebert
31	Electronique	Technique de dépannage (théorie)	29/07/91	02/08/91	35	11	C.Métiers Kaolack /Louga Diourbel - F.F.Ebert
32	Electronique	Maintenance Audio-visuelle TV/Radio	07/10/91	28/12/91	300	10	ACCT/Francophonie

33	Electronique	Dépannage cartes	03/12/91	03/01/92	120	8	SONATEL
34	Méca-Auto	Méca-Auto	16/12/91	14/01/92	120	9	SONATEL
35	Méca-Auto	Méca-Auto	09/12/91	13/01/91	35	14	E.Ebert / GIE "G.Y"
36	Electronique	Dépannage cartes	16/12/91	20/01/92	146	5	ICS DAROU
37	Electronique	Dépannage cartes	28/01/92	28/02/92	146	4	ICS DAROU
38	Electronique	Maintenance Audio-visuelle	02/01/92	20/03/92	300	10	ACCT/Francophonie
39	Soudage	Soudage Métall./ oxycoupage	25/02/92	16/03/92	100	02	ICS MBAO
40	Electronique	Electricité/Electronique	09/03/92	13/05/92	171	01	ICS MBAO
41	Electronique	Electronique digit./Microprocesseurs	09/03/92	09/04/92	130	14	SONATEL
42	Soudage	Oxycoupage	08/04/92	23/04/92	70	02	ICS MBAO
43	Electronique	Electronique digit./Microprocesseurs	09/03/92	08/04/92	130	14	SONATEL
44	Electronique	Electronique digit./Microprocesseurs	21/04/92	22/05/92	130	10	SONATEL
45	Méca-auto	Moteurs Diésel	27/04/92	30/04/92	35	15	F.Ebert / C.M. Kaolack
46	Electronique	Electronique digit./Microprocesseurs	25/05/92	07/07/92	130	11	SONATEL
47	Electronique	Electronique digit./Microprocesseurs	25/05/92	03/07/92	130	11	SONATEL
48	Electronique	Maintenance Audio/Visuelle	17/06/92	21/06/92	35	15	F.Ebert / C.M. Kaolack
49	Electricité	Câblage Industriel	03/07/92	07/07/92	35	18	F.Ebert / C.M. Kaolack
50	Méca-Auto	Moteurs et Equipements Diesel	13/07/92	17/07/92	35	20	F.Ebert / C.M. Kaolack
51	Méca-Auto	Electricité Auto	18/07/92	22/07/92	35	14	F.Ebert / C.M. Kaolack
52	M. Générale	Mécanique Générale et d'entretien	19/08/92	23/12/92	195	01	Biscuiterie de Médina
53	Electronique	Maintenance Audio-visuelle	30/09/92	04/10/92	35	20	F.Ebert / C.M. Kaolack
54	Electronique	Maintenance Audio-visuelle	01/10/92	22/12/92	300	20	ACCT/Francophonie
55	Electronique	Electricité / Electronique	15/10/92	29/01/93	240	01	Biscuiterie de Médina
56	Electronique	Maintenance Audio-visuelle	14/12/92	15/01/93	80	10	ONFP / C.M. Dakar
57	Electronique	Syst. Autom./pesage/Electr.	15/03/93		218(32)	01	SONACOS / Lyndiane
58	Informatique	Initiation en informatique	06/04/93	10/04/93	30	10	
59	Electronique	Maintenance audiovisuelle TV/nb	26/04/93	12/05/93	80	10	ONFP / C.M. Dakar
60	Electronique	Maintenance audiovisuelle TVC	21/06/93	14/07/93	80	20	ONFP / C.M. Dakar
61	Electronique	Electron. digitale/Microprocesseurs	19/07/93	19/08/93	130	12	SONATEL
62	Electronique	Maintenance audiovisuelle TV-Radio	02/08/93	15/10/93	300	20	ACCT / Francophonie
63	Electronique	Electron. digitale/Microprocesseurs	20/09/93	20/10/93	130	10	SONATEL
64	Electronique	Dépannage de cartes électroniques	08/11/93	01/12/93	72		
65	Mécanique	Mécanique auto/électricité carrosserie (7 modules de 21h)	24/01/94	17/06/94	147 (7x21h)	35 (7x5p) 01	Comm. Urbaine de Dakar (Projet G.D. Urbain) B.D. Médina
66	Mécanique	Mécanique automobile	21/02/94	25/02/94	27 h	13	GTZ / CFTMH Diourbel
67	Electronique	Electron. digitale/Microprocesseurs	24/05/94	23/06/94	130	09	SONATEL
68	Electronique	Electronique / Appareils de mesure	27/06/94	29/07/94	100	12	ONFP
69	Electronique	Electronique technique/Automatisme	27/06/94	12/07/94	48	01	ICS - MBAO
70	Electronique	Electr./Technique de dépannage cartes	04/07/94	25/07/94	110	13	SONATEL
71	Informatique	Informatique/initiation en maintenance	25/07/94	04/08/94	45	02	ENDA - TM
72	Electronique	Electricité / Automatisme	18/07/94	27/07/94	48	01	ICS - MBAO
73	Electronique	Electronique / Microprocesseur	01/08/94		130	12	SONATEL
74	Electronique	Electronique Audiovisuelle TV Radio	08/08/94	15/10/94	300	20	ACCT/Francophonie
75	Electronique	Dépannage de cartes	05/09/94	13/10/94	160	03	ICS - DAROU

76	Mécanique	Mécanique Auto / formateur CN	06/09/94	17/09/94	70	01	CNFTEFPN - Ziguinchor
77	Mécanique	Mécanique générale - Fraisage	24/10/94	09/11/94	50	01	ICS - MBAO
78	Mécanique	Soudage / Oxycoupage	15/11/94	01/12/94	48	02	ICS - MBAO (2x1)
79	Electricité	Electrotechnique	14/11/94	06/01/95	105	10	F.F. Ebert / ASETI
80	Mécanique	Mécanique Automobile	16/11/94	01/01/95	70	15	F.F. Ebert / ASETI
81	Electronique	Dépannage de cartes	07/12/94	19/01/95	160	04	ICS - DAROU
82	Informatique	Maintenance Micro-informatique	17/02/95	16/03/95	50	01	SICS
83	Electronique	Electrotechnique	06/03/95	10/03/95	35	15	F.F. Ebert
84	Electronique	Electrotechnique	27/03/95	31/03/95	35	15	F.F. Ebert
85	Electronique	Electronique digitale/Microprocesseur	18/04/95	08/05/95	130	10	SONATEL
86	Electronique	Electrotechnique	22/05/95	29/05/95	35	15	F.F. Ebert
87	Electronique	Grafset / Automates Programmables	30/05/95	14/06/95	70	03	ICS - DAROU
88	Informatique	Maintenance Micro-informatique	31/05/95	26/06/95	70	01	ENDA - TM
89	Electronique	Dépannage de cartes électroniques	12/06/95	03/07/95	110	07	SONATEL
90	Electronique	Electrotechnique	12/06/95	16/06/95	35	15	F.F. Ebert
91	Electronique	Audio-visuel	13/06/95	21/06/95	50	01	ICS - DAROU
92	Mécanique	Techno Machines outils	26/06/95	30/06/95	35	01	ICS - MBAO
93	Mécanique	Techno Machines outils	03/07/95	07/07/95	35	01	ICS - MBAO
94	Electronique	Electronique de puissance	03/07/95	21/07/95	90	03	ICS - DAROU
95	Electronique	Electronique de base + puissance	26/06/95	10/08/95	105	03	ICS - MBAO
96	Electronique	Maintenance Radio-TV	17/07/95	14/09/95	250	17	ACCT / Francophonie
97	Mécanique	Fraisage + Tournage	26/07/95	21/08/95	103	07	ONFP
98	Mécanique	Mécanique Automobile	05/09/95	18/09/95	70	01	CNFTAGR (P. Suisse)
99	Electronique	Maintenance TV-Vidéo	18/09/95	16/11/95	250	18	ACCT / Francophonie
100	Electronique	Maintenance TV C	12/12/95	18/12/95	35	15	F.F. Ebert (Ar. Pikine)
101	Informatique	Pédagogie - Informatique	22/11/95	31/12/95	35	01	ICS - MBAO
102	Electronique	TP Electricité de base	24/01/96	04/03/96	35	08	IPG
103	Electronique	Electron. digitale + microprocesseur	09/04/96	24/04/96	90	04	ONFP / SONACOS
104	Electronique	Maintenance AV / Radio	20/05/96	24/05/96	80	15	ONFP (Artisans Tamba)
105	Electronique	Maintenance AV/TVC	20/05/96	24/05/96	35	15	F.F. Ebert Art. Pikine
106	Mécanique	Réparation/ Entretien MA	11/05/96	30/07/96	80	10	ONFP
107	Electronique	Electronique numérique (base)	30/07/96	05/08/96	35	01	ICS - MBAO
108	Electronique	Electricité de base	30/07/96	07/08/96	56	02	ICS - MBAO
109	Electronique	Automatisme Groupe II	30/07/96	12/08/96	70	04	ICS - MBAO
110	Electronique	Maintenance AV / Product. CAMERA	05/08/96	16/08/96	80	01	Projet Suisse CNFTAGR
111	Mécanique	Métrie	25/09/96	02/10/96	48	10	ONFP
112	Electronique	Maintenance AV/TV - Vidéo	01/10/96	29/11/96	260	15	ACCT / Francophonie
113	Electronique	Maintenance AV/Vidéo	06/01/97	24/01/97	100	11	ONFP
114	Mécanique	Moteurs automobiles	28/01/97	04/03/97	75	02	NESTLE
115	Electronique	Dépannage de cartes électronique	03/03/97	21/03/97	110	04	SONACOS-NESTLE ICS
116	Electronique	Maintenance Micro-informatique	27/03/97	30/04/97	80	10	ONFP (Art. DAKAR)
117	Electronique	Maintenance AV/TV	05/05/97	05/06/97	80	08	ISEIT Etudiant BTS
118	Electronique	Maintenance AV/Radio	12/05/97	27/05/97	80	06	ONFP -(Art. TAMBA)
119	Mécanique	Affûtage des outils/MG	09/06/97	23/06/97	80	09	ONFP

120	Mécanique	Fabrication & Affûtage d'outils/MG	28/07/97	02/08/97	40	02	SONACOS Lynd & Zig.
121	Mécanique	Moteurs et Equipements DIESEL	28/07/97	02/08/97	40	07	SONACOS Lyn & Diourb
122	Electronique	Automate promimable	28/07/97	14/08/97	95	02	SONACOS Lyndiane
123	Electronique	Maintenance Micro-informatique	04/08/97	14/08/97	60	03	SONACOS Lynd. + Privé
124	Electronique	Stabilisation de tension/Electronique	25/08/97	10/09/97	80	10	ONFP
125	Mécanique	Rectification / MG	22/09/97	06/10/97	80	10	ONFP
126	Electronique	Circuit Intégré Numérique	22/09/97	09/10/97	80	09	ONFP
127	Electronique	Dépannage électronique	29/09/97	24/10/97	150	01	ACM Burkina-Faso
128	Mécanique	Electricité auto	29/09/97	25/10/97	170	02	ACM Burkina-Faso
129	Electronique	Grafcet & Automate programmable	20/10/97	31/10/97	70	02	ICS - MBAO
130	Electronique	Grafcet & Automate programmable	08/11/97	19/12/97	70	02	ICS - MBAO
131	Electronique	Electronique Digitale	18/12/97	23/01/97	100	03	GTZ Proj.Solaire
132	Electronique	Dépannage de cartes électronique Informatique industrielle	09/02/98	13/02/98	100	03	Projet GTZ E.Solaire
133	Electronique	Electronique de base	16/02/98	02/3/98	70	09	ONFP Sesteur informel
134	Electrotechn.	Cablage industrielle	18/02/98	05/3/98	80	10	ONFP Secteur moderne
135	Informatique	Maintenance Eqts informatiques	02/3/98	12/3/98	65	09	ONFP Secteur moderne
136	Méca. Auto	Mainten. Moteurs DIESEL	04/3/98	09/3/98	35	07	ONFP Secteur moderne
137	Electronique	Electronique Analogique	24/3/98	31/3/98	40	01	ORSTOM de Mbour
138	Electronique	Maintenance Audiovisuelle TV	13/5/98	04/6/98	100	10	ONFP Sesteur moderne
139	Electronique	Maintenance Audiovisuelle TV n/b	08/6/98	22/6/98	80	05	ONFP Artisans Tamba
140	Informatique	Maintenance Eqts informatiques	13/7/98	29/7/98	72	01	ORSTOM de Mbour
141	Electronique	Maintenance Audiovisuelle Radio	13/7/98	28/7/98	50	16	ISEIT (Etudiants)
142	Electronique	Maintenance Audiovisuelle TV	13/7/98	04/8/98	70	16	ISEIT (Etudiants)
143	Informatique	Maintenance Eqts informatiques	27/7/98	28/8/98	200	01	ACM (Burkina-Faso)
144	Informatique	Maintenance Eqts informatiques	07/9/98	18/9/98	70	10	ONFP Secteur moderne
145	Electronique	Maintenance Audiovisuelle TVc	07/9/98	22/9/98	80	11	ONFP Secteur moderne
146	Electronique	Maintenance Audiovisuelle Radio	15/9/98	26/9/98	65	07	ONFP Secteur moderne
147	Electronique	Electronique digitale+microprocesseurs	16/11/98	24/11/98	80	05	Techniciens biomédicale (Togo)
<b>TOTAUX</b>							

#### 4 夜間コースカリキュラム

Année Scolaire	Classes	Effectifs par classe	Diplômés BT	Effectif Total
1993-94	1 <sup>ère</sup> Année Electronique	21	-	21
1994-95	1 <sup>ère</sup> Année Electronique	28	-	60
	2 <sup>e</sup> Année Electronique	20	-	
	1 <sup>ère</sup> Année Electromécanique	12	-	
1995-96	1 <sup>ère</sup> Année Electronique	45	-	139
	2 <sup>e</sup> Année Electronique	29	-	
	3 <sup>e</sup> Année Electronique	10	07	
	1 <sup>ère</sup> Année Electromécanique	38	-	
	2 <sup>e</sup> Année Electromécanique	17	-	
1996-97	1 <sup>ère</sup> Année Electronique	37	-	173
	2 <sup>e</sup> Année Electronique	34	-	
	3 <sup>e</sup> Année Electronique	10	05	
	1 <sup>ère</sup> Année Electromécanique	34	-	
	2 <sup>e</sup> Année Electromécanique	17	-	
	3 <sup>e</sup> Année Electromécanique	05	01	
	1 <sup>ère</sup> Année Maintenance Appareils Electroniques	36	-	
1997-98	1 <sup>ère</sup> Année Electronique	38	-	266
	1 <sup>ère</sup> Année Electromécanique	62	-	
	1 <sup>ère</sup> Année Maintenance Appareils Electroniques	41	-	
	1 <sup>ère</sup> Année Mécanique Automobile	14	-	
	2 <sup>e</sup> Année Electromécanique	26	-	
	2 <sup>e</sup> Année Electronique	26	-	
	2 <sup>e</sup> Année Maintenance Appareils Electroniques	22	-	
	3 <sup>e</sup> Année Electronique	29	18	
	3 <sup>e</sup> Année Electromécanique	08	06	
1998-99	1 <sup>ère</sup> Année Electronique	40	-	272
	1 <sup>ère</sup> Année Electrotechnique	40	-	
	1 <sup>ère</sup> Année Electromécanique	40	-	
	2 <sup>e</sup> Année Electronique	21	-	
	2 <sup>e</sup> Année Electrotechnique	30	-	
	2 <sup>e</sup> Année Electromécanique	23	-	
	2 <sup>e</sup> Année Maintenance Appareils Electroniques	28	-	
	3 <sup>e</sup> Année Electronique	21	-	
	3 <sup>e</sup> Année Maintenance Appareils Electroniques	16	-	
	3 <sup>e</sup> Année Electrotechnique	13	-	
<b>TOTAL</b>			<b>37</b>	<b>931</b>

NB : Les cours du soir en informatique sont effectués régulièrement à raison de 90 à 120 heures (modules) avec deux (02) groupes de 10 participants depuis 1994.

5 周辺国からの入学者数

ANNEE	SECT*	GADON	DENIN	C. D'IVOIRE (CAP-VERT)	R.D. CONGO	CONGO (MALI)	MAURIT (GUINEE)	C. AFRIQUE (CAMEROUN)	TCHAD	NIGER	TOGO	B FASO	LIBAN	FRANCE	TOTAL
1992 1993	AE	-		-	-	-	-	(1)				1	1	-	3
	EI	1		-	-	-	-	-				-	-	1	2
	ET	1		1	-	-	-	-				-	-	-	2
	MG	1		-	-	(1)	-	-				-	-	-	2
	MA	-		-	-	-	2	-				1	2	-	5
1993 1994	AE	1		-	-	-	(1)	(1)				-	1	-	4
	EI	-		(1)	-	-	-	-				-	2	1	4
	ET	1		1	-	-	(1)	-				-	2	-	5
	MG	-		-	-	(1)	-	(1)				-	-	-	2
	MA	-		-	-	-	1	-	1			1	3	-	6
1994 1995	AE	1	-	-	-	(1)	-	-			-	-	-	1	4
	EI	2	1	1	-	-	(1)	-			-	1	-	-	6
	ET	3	-	1	-	-	(1)	-			1	-	1	-	7
	MG	1	-	-	-	-	-	(1)			-	-	-	-	2
	MA	1	-	-	-	-	1	-			-	1	-	-	3
1995 1996	AE	1	-	-	-	-	-	-			-	-	-	-	1
	EI	4	1	-	-	-	(1)	-			-	1	-	-	7
	ET	2	-	-	-	1	(1)	-			1	-	1	-	6
	MG	-	-	-	1	-	-	(1)			-	-	-	-	2
	MA	1	1	-	-	-	-	-			-	1	-	-	3
1996 1997	AE	1	-	-	-	-	-	-		1	-	-	-	-	2
	EI	5	1	-	-	1	-	-		-	-	1	-	-	8
	ET	2	-	-	-	-	-	-		-	1	-	-	-	3
	MG	2	-	-	-	1	-	-		-	-	-	-	1	4
	MA	-	1	-	-	-	-	-		-	-	1	1	1	4
1997 1998	AE	2	-	-	-	-	-	-					-	-	2
	EI	4	-	-	-	1	-	-					-	-	5
	ET	-	1	1	1	1	1	1					-	-	6
	MG	2	-	-	-	-	-	-					-	1	3
	MA	2	1	-	-	-	-	-					1	-	4
1998 1999	ELN	4	1	-	-	-	-	1	1				2	1	10
	ET	-	1	1	1	-	1	-					-	-	5
	MG	-	-	-	-	-	-	-					1	-	1
	MA	3	1	-	-	-	-	-					2	-	6
TOTAL		48	10	6 (1)	3	5 (3)	6 (6)	2 (5)	2	1	3	9	20	7	138



## 6 指導員リスト

## Ⅲ. LISTE NOMINATIVE DU PERSONNEL ENSEIGNANT

分野	No	氏名	採用年月
家庭用電子機器修理科	1	Yatma NDJAYE	1985. 10
	2	Baboucar NDJAYE	1986. 6
	3	Papa Bô DIALLO	1987. 4
	4	Babacar SECK	1990. 4
電気科	5	Amadou MBODJI	1985. 8
	6	Dame FALL	1989. 1
	7 *	Abdou KEBE	1992. 11
	8 *	Papa Abdourahmane FOFANA	1993. 10
自動制御科	9	Mamadou Yoro BARRY	1987. 1
	10	Mamadou Saliou DIALLO	1987. 4
	11	Dianguina DIARISSO	1989. 1
	12	Mame Oumy DIOP	1989. 1
	13 *	Massamba MBOW	1997. 11
機械修理科	14	Amadou Oury SA	1985. 10
	15	Jean MANCORE	1990. 1
	16 *	Serigne Touba DIENG	1992. 10
	17 *	Abou CISSE	1992. 10
	18 *	Malick FALL	1994. 4
	19 *	Mor PADANE	1996. 12
自動車整備	20	Alioune Abdou DIAW	1987. 3
	21	Momar COBAR	1987. 4
	22	Elhabji Mansour DIAGNE	1990. 1
	23	Alioune Badara DIONE	1990. 5
	24 *	Baye Aby DIAGNE	1992. 11
	25 *	Abou TALL	1993. 10
一般	26 *	Mamadou CISSE	1984. 10
	27 *	Abdoulaye Sadio SALL	1988. 10
	28 *	Amadou Mactar NAM	1989. 10
	29 *	Maimouna FALL	1994. 10
	30 *	Birahim DIALLO	1998. 2

\* : プロジェクト方式技術協力でのカウンターパート以外の教員。

## EVALUATION BY THE THIRD PARTY

### The Senegal-Japan Technical and Vocational Training Center(CFPT) Project “Questionnaire/Hearing Survey” Guideline

#### 1. Target Groups

- \* Officials of the Ministry of National Education who are administrating human resources
- \* Managerial and Administrative Personnel of CFPT
- \* Counterpart people and other Instructors of CFPT
- \* Trainees of CFPT
- \* Graduates of CFPT and their Employers
- \* Staff of other Vocational Training Organizations than CFPT

#### 2. Methodology

"Questionnaire/Hearing Survey" in the Republic of Senegal shall be conducted;

- \* Officials of the Ministry of National Education shall be interviewed using the "Questionnaire Sheet".
- \* All the relevant Personnel in the administration of CFPT, including Director and Managers, shall be interviewed by group using the "Questionnaire Sheet".
- \* In principle, "Questionnaire Sheet" shall be sent to all the Instructors who are presently working in CFPT. Chief Instructors of all courses shall be interviewed.
- \* Trainees presently under training at CFPT shall be questioned by every course of training. Grade-up course trainees joining CFPT training course also shall be questioned selecting some of them.
- \* At least one (1) person among the graduates of each training course and his(her) employer shall be individually interviewed using the "Questionnaire Sheet".
- \* Interviews shall be made visiting other vocational training organizations than CFPT.

#### 3. Items to be Questioned

Items to be questioned in the "Questionnaire Sheet" by target groups are as follows;

## **I Officials in the Ministry**

### **1) Ministry of National Education**

- ① Has the country sufficient number of skilled and well experienced technicians?
- ② How do you evaluate activities of CFPT?

### **2) Vocational Training Bureau, Ministry of National Education**

- ① Is there any change in principal targets in human resources development policy since 1982? If change is made, what kind of change?
- ② Has the country sufficient number of skilled and well-experienced technicians?
- ③ How much the public appreciates professional skills? Have you skill competitions and/or a national system of trade test?
- ④ How do you evaluate role and activities of CFPT? How much the industry concerned acknowledge them? How do you evaluate them compared with those of other vocational training institutions?
- ⑤ Is the BT qualification systematized? Is it admitted to vocational training in CFPT?
- ⑥ Are the Instructors of CFPT qualified as government officials? What are the criteria of employment of instructors as government officials? How is the stability of instructors on the job?
- ⑦ We are reported that the budgetary measures for the activities of CFPT are not satisfactory in the past. Is the situation improved now?
- ⑧ How do you proceed collaboration with neighboring countries in vocational training field?

## II Administrative Staff of CFPT

### (Management and Administration)

Is the sufficient number of each administrative personnel and instructors assured?

### (Vocational Training)

- ① Could you give us information by each course of the BT training, about course contents, course duration and admission number of trainees?
- ② Could you give us information by each course of the employees' up-grade training course, about course contents, course duration and admission number of trainees?
- ③ Personnel distribution information about CP(counter part) instructors and other instructors in CFPT organization. Could you give us the name list of them by each course from the start up of CFPT?
- ④ What is the prerequisite of instructor's qualification? How many instructors have got the qualification?
- ⑤ Technical transfer between Japanese experts and CP trainers, was it sufficiently made?
- ⑥ How do you proceed the technical transfer between CP instructors and other instructors?

### (Information about Trainees)

- ① Could you give us information about admission number, application number, examinees' number, admitted number and entrance number of trainees by courses and in time series?
- ② Could you give us information about graduate number of trainees from CFPT, application number of BT qualification, qualified number of BT by courses and in time series? What is the prerequisite for the application to BT examination?
- ③ What is the recruit circumstances of the graduates by year and by course? We wish to have information about their job categories by year and by course(including self-employment).

### (Machine and Equipment)

- ① Do the donated machines and equipment meet to the training requirement?
- ② How do you utilize the donated machines and equipment? Please let us know the operation rate of main machines and equipment by courses.
- ③ What kind of machines and equipment does Senegal side properly prepare?
- ④ How do you perform the maintenance of training machines and equipment? How do you get their parts?
- ⑤ How do you get consumable goods for the training? Are they sufficiently supplied?

### (Teaching Materials)

- ① Has the change of curriculum occurred since the start up of training in 1984?  
If it occurred, please let us know detail and reason of the change.
- ② How much do you equip with printed teaching materials?
- ③ What kind of teaching materials has Senegal side developed by its own efforts?

### (Others)

- ① Regarding the reception of trainees from neighboring countries, please let us know progress of number of trainees by year, by course and by countries.
- ② How do you think about the reception in future of trainees from other countries?
- ③ How do you make public communications of CFPT?

### III CP Instructors (Questionnaire)

- 1) Name and Age
- 2) Present Position (Position at the time of Project Implementation also be asked.)
- 3) Teaching/Training Subject in charge
- 4) Period of Training as a Counterpart (at the time of Project Implementation)
- 5) Name of the Expert by whom the counterpart was trained
- 6) Period of Service in CFPT
- 7) Project Evaluation during the term of Project Implementation
  - ① Technology Transfer by the Expert
    - \* Were the contents, plan, curriculum and teaching materials proper for the needs of industry and training ?
    - \* Was the technology transfer through common subjects and individual guidance implemented effectively and efficiently ?
    - \* Other effects and issues concerning the technology transfer.
  - ② Training in Japan (to those who attended the training in Japan)
    - \* Was the content of training suitable to your needs ?
    - \* Was the training implemented effectively and efficiently ?
    - \* Was the timing of training in Japan appropriate ?
  - ③ Monitoring of Technology Transfer and Outputs of the Training
    - \* Were the monitoring and feed-back activities for the effects of technology transfer by the experts and training in Japan conducted properly ?
    - \* Were the outputs of the monitoring reflected to the improvement of contents of the Project and Programmes ?
  - ④ About the Project in general
    - \* Free opinions concerning the Project in general

8) Effects and/or Influences of the Project after Its Consummation

- ① What is your motivation for working in CFPT?
- ② Changes in the quantity and quality of the contents of training in each training courses

\* Are there any changes in the quantity of the contents of training in your field of concern after the implementation of the Project (In case if the contents of training is widened and/or increased). If any, what kind of change and why the change was made? What are the positive and/or negative issues accompanied with the quantitative changes?

\* Are there any change in the quality of the contents of training? (In case if the contents of training is changed and/or up-dated to cope with the needs of the age.) If any, what kind of change and why the change was made? What are the positive and/or negative issues accompanied with the qualitative change?

\* Are there any attempt to modify the contents of training to cope with the needs of age?

- ③ Changes in the qualitative and quantitative technique and training ability of the individual Counterpart

\* Were there any changes in the quantity of training norm after completion of the Project? If any, what kind of changes and why the changes were made? What are the positive and/or negative issues accompanied with the changes?

\* Is the transferred technology used practically after completion of the Project? Is the transferred technology developed further?

\* Is the transferred technology further transferred to other instructors? What is the spreading effect of the technology? Is the system for further transferring technology to other instructors established within CFPT?

\* Are there any attempt to study technologies to cope with the needs of age?

- ④ General opinions on the spreading effects and/or issues of the Project after the project consummation.

\* Free opinions concerning the general spreading effects of the Project.

#### IV Instructors other than CP Instructors

- 1) Name and Age
- 2) Present Position (in CFPT)
- 3) Teaching/Training subject in charge
- 4) Period of Service in CFPT
- 5) Reason why you joined CFPT
- 6) Technology Transfer from ex-Counterpart Instructor
  - \* Were there any technology transferred from any CP Instructor?
- 7) Spreading effects and/or issues of the Project
  - \* What are the spreading effects and/or issues of the Project?



V CFPT Chief Instructor (Interview)

- 1) Name, course and training subject in charge
- 2) Improvement in curriculum after 1991. If any, detail and reason of the improvement.
- 3) Please let us have the curriculum at present.
- 4) Please let us know the development results of texts and teaching materials (volume and method).
- 5) Do the donated machines and equipment meet the requirement of training needs?
- 6) How do you utilize the donated machines and equipment? Please let us know the operation rate of main machines by training courses.
- 7) What kind of machines and equipment does Senegal side prepare by its own efforts?
- 8) How do you perform the maintenance of training machines and equipment? How do you get parts?
- 9) How do you get consumable goods for the training? Are they sufficiently supplied?
- 10) What would be the problem in performing training?
- 11) What are the points to be improved in future?

VI Trainees (2 trainees of third year from each course: 10 trainees, and 10 trainees from grade-up course)

- 1) Name and Age
- 2) Subject under training
- 3) Reason why you entered into CFPT
- 4) Evaluation of the Contents of Training
  - \* Degree of satisfaction concerning the quantity of the content of training and curriculum. (Are they matched with your needs?)
  - \* Degree of satisfaction concerning the quality of the content of training and curriculum. (Are they matched with your needs?)
- 5) Evaluation of Instructors
  - \* Opinions on the training curriculum by Instructor
  - \* Opinions on the practical training by Instructor
  - \* Other opinions in general
- 6) Evaluation on the Facility and Equipment
  - \* Opinions on the facility of CFPT
  - \* Opinions on the equipment of CFPT
- 7) Employment (only for BT course trainees)
  - \* What is your carrier development plan after graduation from CFPT?
  - \* Opinions on CFPT's assistance for your seeking job.

VII Graduates (Interview) - one graduate from each course

- 1) Name and Age
- 2) Name of the Employer, Business of the Employer, Duties in Charge and Period of Employment
- 3) Subject trained (in CFPT)
- 4) Reason why you entered into CFPT
- 5) Evaluation of the contents of training
  - \* Degree of satisfaction for the quantity of the contents of training and curriculum (Were they satisfactory to your needs?)
  - \* Degree of satisfaction for the quality of the contents of training and curriculum (Were they satisfactory to your needs?)
- 6) Evaluation of Instructors
  - \* Opinions on the training curriculum by Instructors
  - \* Opinions on the practical training by Instructors
  - \* Other opinions in general
- 7) Evaluation of Facility and Equipment
  - \* Opinions on the Facility (of CFPT)
  - \* Opinions on the Equipment (of CFPT)
- 8) Employment
  - \* Measure of Job-Seeking and Process of deciding present employment
  - \* Is the present occupation satisfactory, compared with your original carrier development plan while you were in CFPT
  - \* Opinions on CFPT's assistance for your job seeking (Did CFPT make any guidance and advise in deciding the present employment?)
- 9) Effects of the training at the present job
  - \* Was the technique trained at CFPT made best use of it soon after the employment?

\* Is the technique acquired at CFPT still working well at the present employment? (Is it satisfactory to the needs of the present duty?)

\* What kind of technology do you think you should develop in the future?

10) Other opinions concerning the training at CFPT in general

VIII Employers (Interview) – (Employers of graduates of CFPT)

- 1) Name and Age
- 2) Name of the Enterprise and Outline of its Business
- 3) Number of the CFPT graduate-employees and their Name, Age, Period of Employment and Duties in Charge
- 4) Reason and Process of Employment of the Graduate(s)
- 5) Evaluation of Graduate-Employee(s)
  - \* Was the technique the graduate(s) trained at CFPT made best use of it soon after the employment?
  - \* Is the technique the graduate(s) trained at CFPT still working well at present? (Is it satisfactory to the needs of the business?)
  - \* How do you treat them in your company?
  - \* What kinds of technique and/or human resources do you think you will need in the future in your business line?
- 6) Other general opinions concerning CFPT
  - \* Desirable human resources to be developed and desirable techniques to be trained at the Vocational Training Centre.

IX Other Training Organization other than CFPT (Interview) – if possible

- 1) Could you give us information such as;  
training courses, number of instructors, training machines and equipment  
you possess, number of trainees, BT holders and employment situation of  
graduates.
- 2) How do you evaluate CFPT's performance?
- 3) How do you think about the possibility of collaboration between your  
organization and CFPT?